

平成29年度
地球環境『自然学』講座
第 18 回

テーマ

「森・里・湖のつながりを再生する環境自治と
琵琶湖の未来」

講 師

前滋賀県知事
前びわこ成蹊スポーツ大学 学長
元環境社会学会 会長
嘉田 由紀子 先生

平成 30 年 1 月 27 日
認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

嘉田 由紀子（かだ ゆきこ）



1. 経歴

1950 年埼玉県本庄市の養蚕農家生まれ。中学校の修学旅行で滋賀の歴史・琵琶湖の美しさに感動。1969 年京都大学入学と同時に探検部入部。1971 年電気もガスも水道もないアフリカで半年暮らし水と環境の価値発見。1973 年アメリカ・ウイスコンシン大学留学、1975 年修士課程修了。1981 年京都大学大学院博士後期課程修了、農学博士。1975 年長男・1979 年次男出産。1981 年琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員を経て 2000 年京都精華大学教授。2006 年公共事業を見直し、子育て・教育・環境保全をふくむ「もったいない！」の訴えて県民の皆さんの支持を得て、現職を破り滋賀県知事に初当選。2010 年には県政史上最大の 42 万票をいただき再選。2 期 8 年知事を務め 2014 年勇退。2012 年 12 月には「卒原発」を訴えて、国政政党「日本未来の党」を結成、党首として衆議院議員選挙を戦うが惨敗。2014 年 10 月にびわこ成蹊スポーツ大学学長に就任。2017 年 10 月の衆議院選挙に「無所属」として滋賀県選挙区第一区で挑戦するが落選。2012 年より「未来政治塾」塾長として若者・女性・雇用者の政治参画を進める。

2. 著書（単著に加えて共編著書なども含む）

『レイチェル・カーソンに学ぶ現代環境論』（2017 年、法律文化社）、『子どもたちの生きるアフリカ』（2017 年、昭和堂）、『地方自治のあり方と原子力』（2017 年、七つ森書館）、『命にこだわる政治をしよう！』（2013 年、風媒社）、『知事は何ができるのかー「日本病」の治療は地域からー』（2012 年、風媒社）、『生活環境主義でいこう！ー琵琶湖に恋した知事』（2008 年、岩波ジュニア文庫）、『水をめぐる人と自然ー日本と世界の現場からー』（2003 年、有斐閣）、『環境社会学』（2002 年、岩波書店）、『水辺ぐらしの環境学ー琵琶湖と世界の湖からー』（2001 年、昭和堂）、『水辺遊びの生態学ー琵琶湖地域の三世代の語りからー』（2000 年、農山漁村文化協会）、『生活世界の環境学』（1995 年、農山漁村文化協会）など多数。

地球環境『自然学』講座講演会

森・里・湖のつながいを再生する 環境自治と琵琶湖の未来

平成30年（2018年）1月27日

前びわこ成蹊スポーツ大学 学長

前滋賀県知事 元環境社会学会会長

嘉田由紀子（資料提供：滋賀県）



浜は青田にとて店のかつ洗面所

本日の話題展開

- (1) 個人的背景と研究姿勢の起源(1950年～1970年代)
- (2) 文理連携(Interdisciplinary Approach)、生活知と科学知の連携を目指した琵琶湖研究所(1980年代)
- (3) 生成する環境学 「天下い理論」ではなく「たたきあげ理論」 見える化した琵琶湖博物館(1990年代)
- (4) 知行合一(中江藤樹) 研究成果を政策に 滋賀県知事としての挑戦と実践(Transdisciplinary Approach)(2000年代)
- (5) 命と子育て、環境にこだわり住み心地日本一の滋賀を～嘉田県政の8年の成果～
- (6) ハードウェア、ソフトウェア、ハートウェアのバランスを保った琵琶湖の未来政策を関西とのつながいで！(2010年代)

(1) 個人的背景と研究姿勢の起源

研究背景と滋賀県・琵琶湖への思い

1950年代 埼玉県養蚕農家生（農家の母の苦勞・母の三つの教え：自然の不思議・弱者への共感・食いぶちは自分で）

— 15歳の関西修学旅行、18歳の高校修学旅行
— 江と琵琶湖の強烈な記憶

1970年代

— 高校時代に出会った三冊の本
（今西錦司、梅棹忠夫、中尾佐助）

— 関西の大学を選ぶ

（アフリカ探検：女人禁制の探検部に押し入る）
— 未開といわれるが人間力全開のタンザニアで
フィールドワーク（水と人間のかかわり）

「コップ一杯の水・一皿の食べ物の価値」

（1972『成長の限界』：メドウズ他）

環境共生社会への関心



1973 アメリカ留学（日本の環境共生型水田社会研究を促される）

1974 滋賀県、琵琶湖辺の水田農村を研究対象に

1980年代

**滋賀県職員「琵琶湖研究所員」として琵琶湖と人のかかわり研究開始
（梅棹・吉良構想）**

滋賀県内集落のフィールドワーク研究

生活環境主義の誕生（水と人の環境史）（鳥越・古川・松田）

生活者意識を埋め込んだ環境問題への政策理論づくり

1990年代

住民参加型の琵琶湖博物館提案・準備・開館・運営

世界各地の湖沼地域の比較環境社会学研究

古代湖・琵琶湖の世界的価値を整理・発信

2000年代

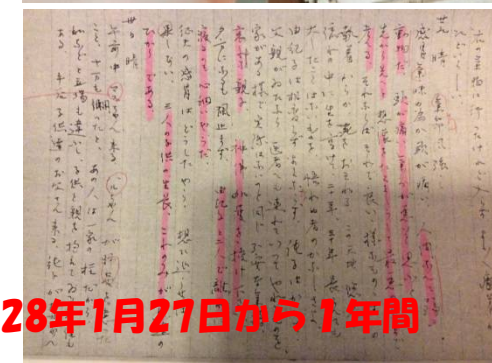
京都精華大学で環境社会学教員

滋賀県知事（2006～2014年）

**研究者の経験と理論を琵琶湖政策・滋賀県の未来づくりに活かしたい
“みつつのもったいない”（財政リスク・環境破壊リスク・人口減少
リスクへの歯止め）政策を地域から訴え・実践したい。**

嘉田はなぜ環境研究を続けたのか？ (実母の支えと教えを受け継ぐ)

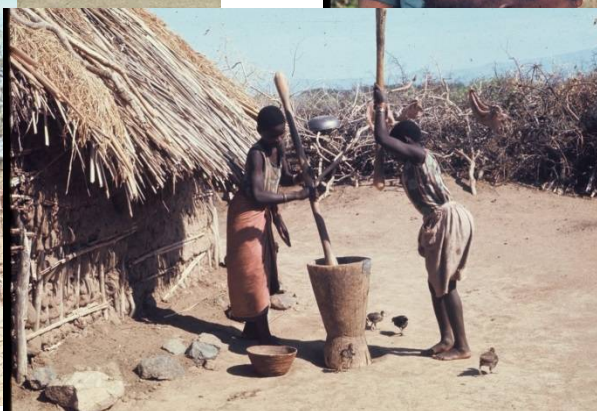
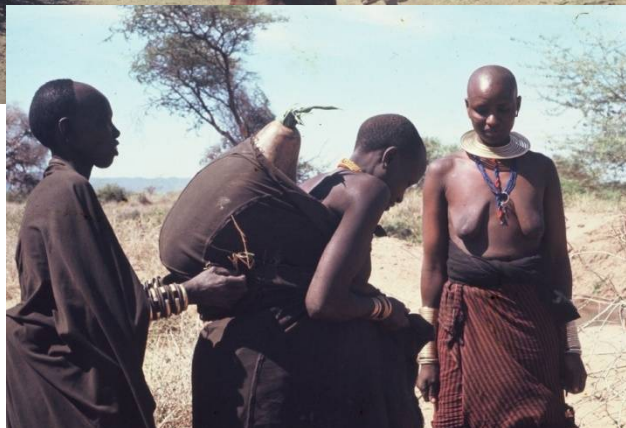
- (1) 農家の長男の嫁として苦勞してきた母からの教え
 - 「自分の食いぶちは自分で稼ぎなさい」
 - 昭和20－30年代の農村女性の苦難
 - (明治民法による大家族・子育て、過酷な農業労働、結核、家制嫁姑関係、女の腹は借り物、嫁の人権は全く認められず、薬代が欲しい！ →現金収入を自分で稼ぐ事！)
- (2) 「女に教育はいらない」という祖父の強制の中で隠れて勉強していた私を、養蚕と野菜づくりで学校へ送ってくれた母。
 - 自分の人生は自分で切り拓きたい。家族社会学を学ぶ中で世界の女性の暮らしの現実を知り、社会をよくしたい、という社会的正義感から社会学者としての研究を継続。
- (3) 農業をやりながらの農本主義者でかつ博物学的な知識を教えてくださいました母。「名前のない草はない」という教え、押し花。
 - 農業をやりながらの周囲の自然界への関心が私に環境社会
 - 学者としての関心を育ててくれた。



母の結核闘病日記（昭和28年1月27日から1年間

（2014年3月発見）

1971年、タンザニアの村にて コップ一杯の水、一皿の食事の価値に 目覚める



アメリカ留学中に日本の水田農村の研究 (自然と人間の共生社会モデル)促される。

- ・ハーティンの所有論(共有地の悲劇)→共有地でないことの悲劇
- ・アルネ・ネスのディープエコロジー論(人間中心主義からの脱却)
- ・リン・ホワイトのキリスト教的自然観と環境破壊 VS パスモア
- ・レイチェル・カーソンの「Sense of Wonder」[Silent Spring]

・アメリカでの指導教授からアドバイス →日本の水田農村の持続性こそ研究価値がある。

・子育てとの両立に悩む嘉田に社会心理学教授からのアドバイス
～1日24時間のうち23時間は仕事・研究を、子育ての愛情は1時間で高密度で



(2)

**文理連携(Interdisciplinary Approach)、生活知と科学知の
連携を目指した琵琶湖研究所
での生活環境主義的研究**

なぜ琵琶湖研究所・琵琶湖博物館だったのか？その前史から

1974年 武村正義県政誕生

1977年 赤潮発生→石けん運動、琵琶湖への関心高まる

1979年 富栄養化防止条例制定

1982年 琵琶湖研究所発足

武村正義「行政、政治の立場から琵琶湖に対して学問的な目を向け、学問的な判断に耳を傾ける」

梅棹忠夫「自然科学だけでなく琵琶湖は人の暮らしと関係が深いので、人文科学的分野を取り込むように」

米山俊直「地域の生活・社会の視点から土着主義を」

末石富太郎「自然と人あるいは住民と行政の通訳を」

1984年 世界湖沼会議→琵琶湖の時間的・空間的見える化

琵琶湖研究所をといまく環境政策

近代科学技術主義政策と専門研究に限界を発見

(1) 水の汚染とは？ 日本陸水学会・湖沼学者

「湖沼学者は水中の物質循環のメカニズムを扱うが汚染は人間社会の問題だ。私たちの研究テーマではない」

(2) 行政的に水汚染の定義は？ 滋賀県環境政策課

「水質汚濁防止法」で決められた環境基準(物質)に沿って定義、改善目標を定め、汚濁負荷削減など政策化。

(3) 琵琶湖が汚染されたといわれる水道導入前の生活用水は？ 滋賀県公衆衛生課

「水道法で決められた法令を守ることが役目、水道導入前の生活用水には関心はない、行政の仕事ではない」

→生活者目線の必要性・琵琶湖博物館の提案 10

1970年代の琵琶湖総合開発を めぐる水環境思想状況

(1) 琵琶湖の水質汚染には、下水道に代表される近代技術で対応可能→「近代技術主義」

「下水道 琵琶湖浄化の 第一歩」

(2) 琵琶湖の環境破壊を止めるには、ヨシ帯など、自然環境の保全が大切→「自然環境保全主義」

「琵琶湖研究所は御用研究所」

(3) 琵琶湖研究所での社会・文化系の研究

地元生活者の水・湖とのかかわりの変遷から環境保全の目的を導きだそう→「生活環境主義」

「生活環境主義の立場」

「方法としての環境史」(鳥越皓之・1984年)

(鳥越・嘉田編『水と人の環境史』1984年)

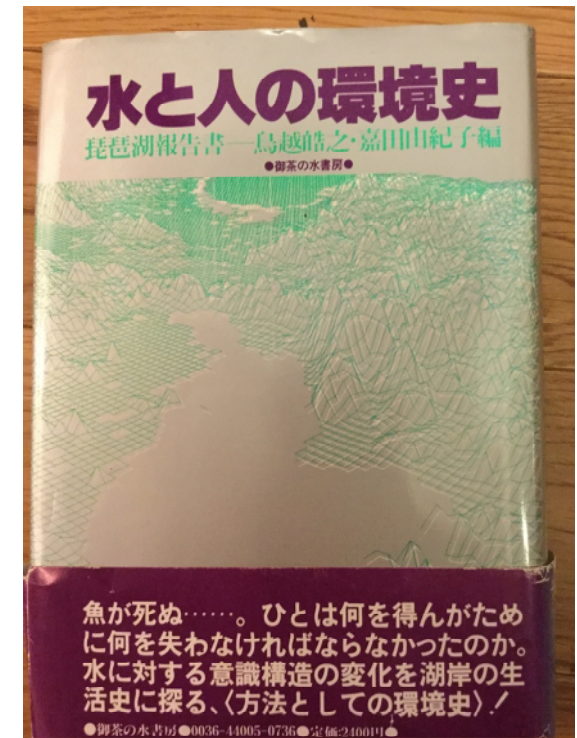
- (1) 伝統＝過去の知の累積を分析、伝統とは反逆的で個別的である。
- (2) 環境史は客観的な第三者の立場ではなく「当該社会に実際に生活する居住者の立場」にたつ。
- (3) 「近代技術主義」「自然環境保全主義」に対する第3の立場として「生活環境主義」を標榜する。
- (4) 「生活環境主義」は「科学的な知」(要素分析的)と「日常的な知」(独自の全体的・共同的主観)の橋渡しをする立場。
- (5) なぜ？環境保全分野において科学に対する不当な期待が不当な落胆を伴う(単なる合意形成のために科学や科学者が利用される)場面にたくさん出会った。
- (6) 「環境史」は「実証」としての経験的事実と一般化された「理論」とを橋渡しをする立場でもある。
- (7) トーマス・クーンの「科学革命の構造」(パラダイム論)に触発され、「色メガネ」を自覚化する。
- (8) 最終的に実証・理論の判断基準は「日常生活感覚」に基づく「リアリティ」である。

嘉田・仲間との琵琶湖研究史

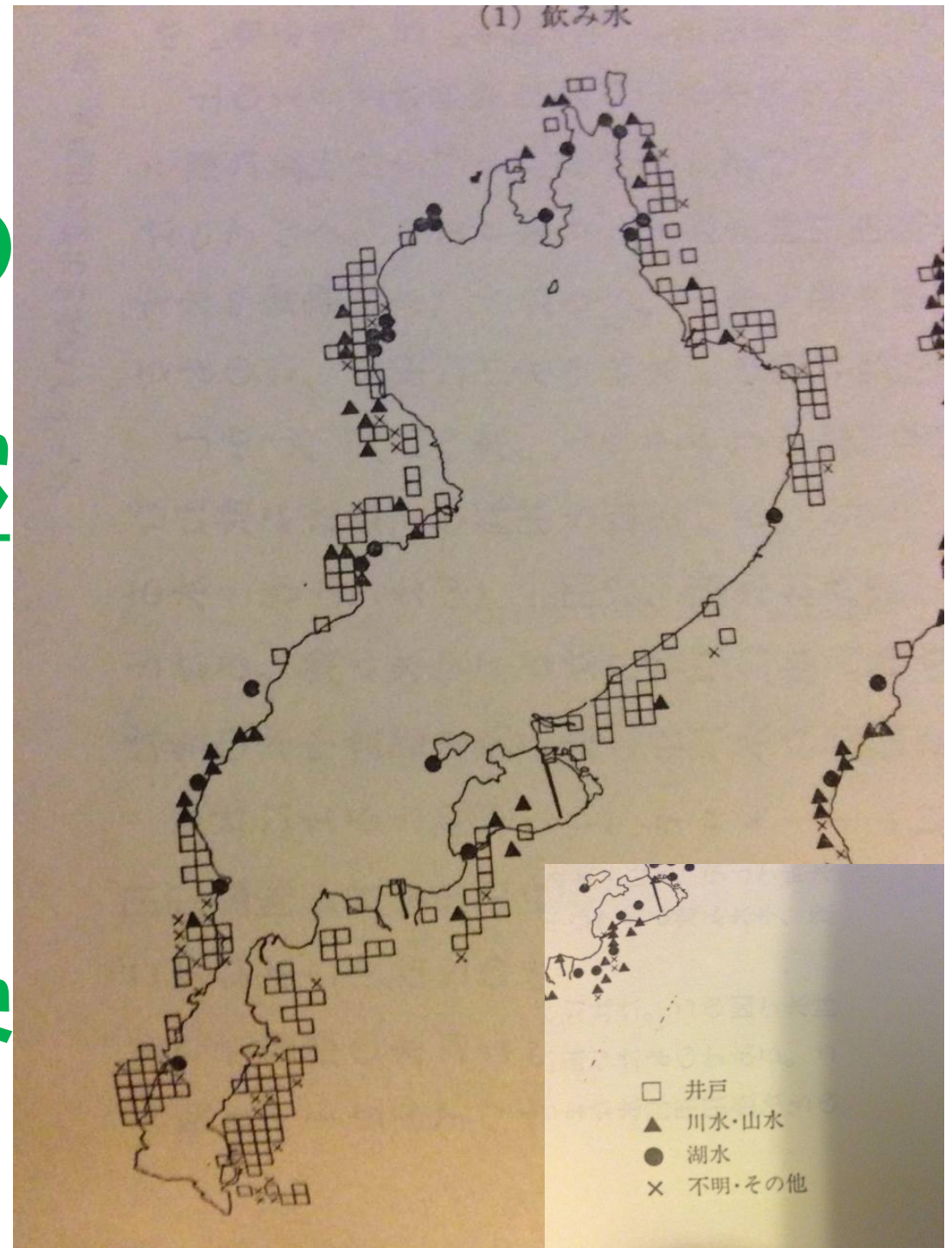
1980年代「虫の目」調査：

主体は地域居住者：住民

- ・「琵琶湖辺の暮らしでの、水と人間のかかわりの内なる意味を発見した時代」
- ・「うおじま、水田、水界の文化的価値」
- 『水と人の環境史』(1984年)
- ・近代技術主義 vs 自然環境保全主義に対して第3の立場—生活環境主義、
- ・マキ/町知内村の250年の「村日記」の研究が原点。居住者、生活者の立場を強調、地域コミュニティの意味
- ・湖辺の他の地域では、文字記録にプラスして生活写真記録を発掘。10万枚の生活写真の発見、データベース化、今昔比較
- ・古写真を活用した「資料提示型インタビュー」。



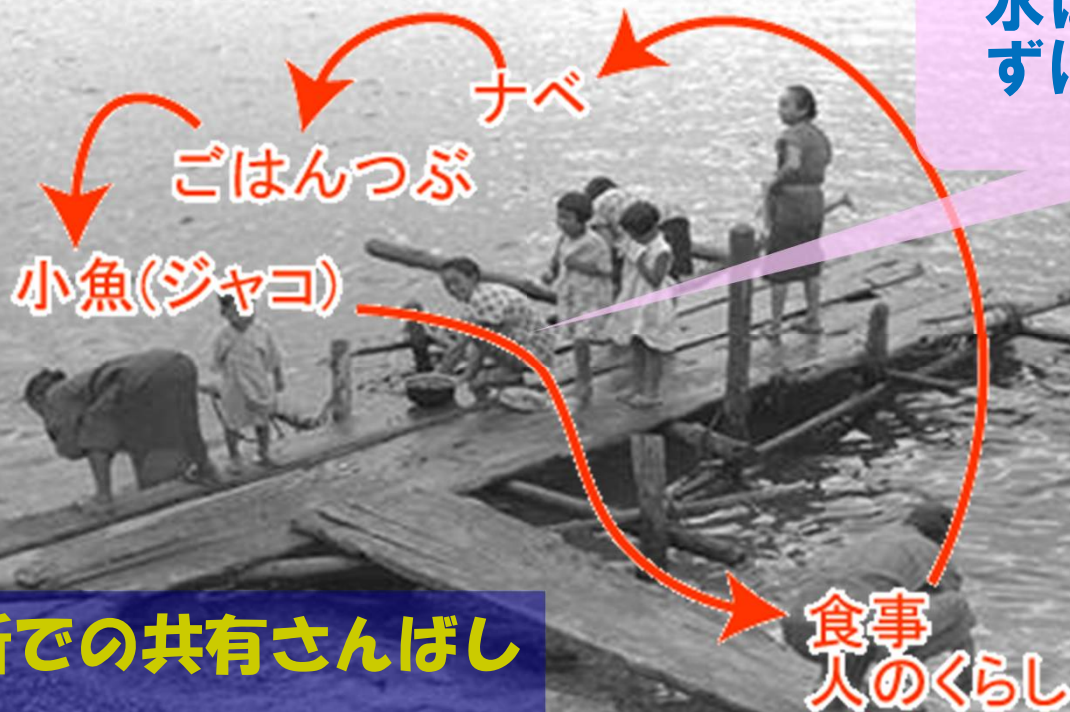
昭和30年代の
琵琶湖畔の集
落の22%が飲
み水を「湖水」「
川水・山水」の
自然水を飲ん
でいた！
(『水と人の環境史
』214頁)



「近い水」の暮らし(高度経済成長期以前)

●湖はよごれなかった？
→湖岸の生活と生態システムの循環

水はこさいで（こさずに）のんだ、うつくしかった



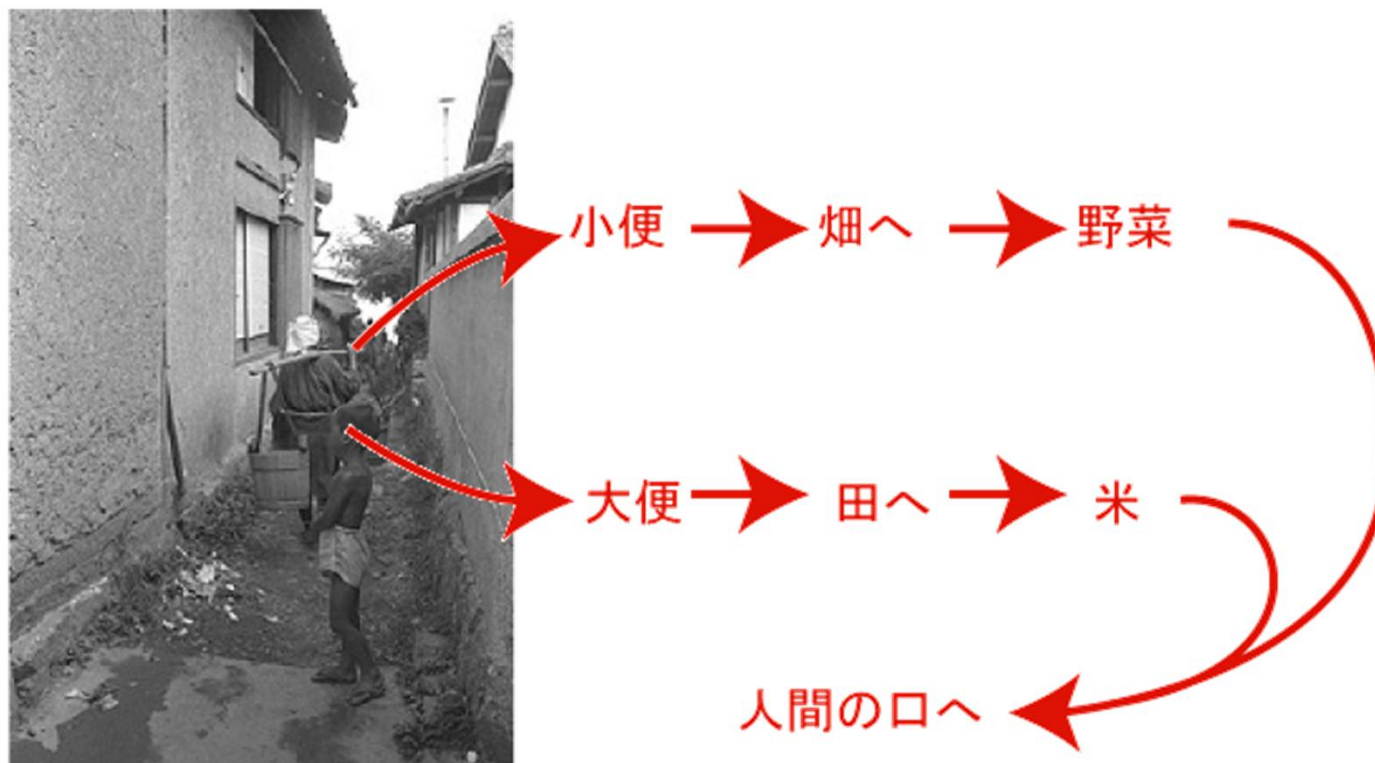
隣近所での共有さんばし

- ・よごさない不文律
- ・オムツ洗いは禁止
- ・利用の約束事

昭和30年代の琵琶湖岸

写真: 前野隆資、提供: 琵琶湖博物館

し尿は大小便分離して田や畑へ



「遠い水」の暮らしへの移行(高度経済成長期)

- 湖岸の洗い場は消えて、水道に…



1956(昭和31)年

前野隆資撮影・琵琶湖博物館提供



1997(平成9)年

古谷桂信資撮影・琵琶湖博物館提供

昭和30年代の水路は どこへ・・・

田舟で牛を運ぶ。水路の多かった幸津川(さづかわ)では田への行き来はほとんど舟で、田起こしの時期には牛も田舟にのせていった。牛をのせる田舟は、ふつうのものよりも幅が広く、安定していた。下新川(しもにいかわ)神社のお旅所が舟着き場になっていたが、今では埋め立てられて面影はない。



守山市幸津川

1954(昭和29)年／写真:藤村和夫



1997(平成9)年／写真:古谷桂信

〔提供:琵琶湖博物館〕

近い水のしくみ

(1) 水保全の循環のしくみーモノ / ハードウェア

「水の使いまわし文化」

生き物循環

(2) 水保全の社会的しくみーテキゴト ソフトウェア

時間のつかいわけ・空間のつかいわけ

地域共同体としての配慮

(3) 水保全の心理的しくみーココロ ハートウェア

直接水をのむという「信頼」

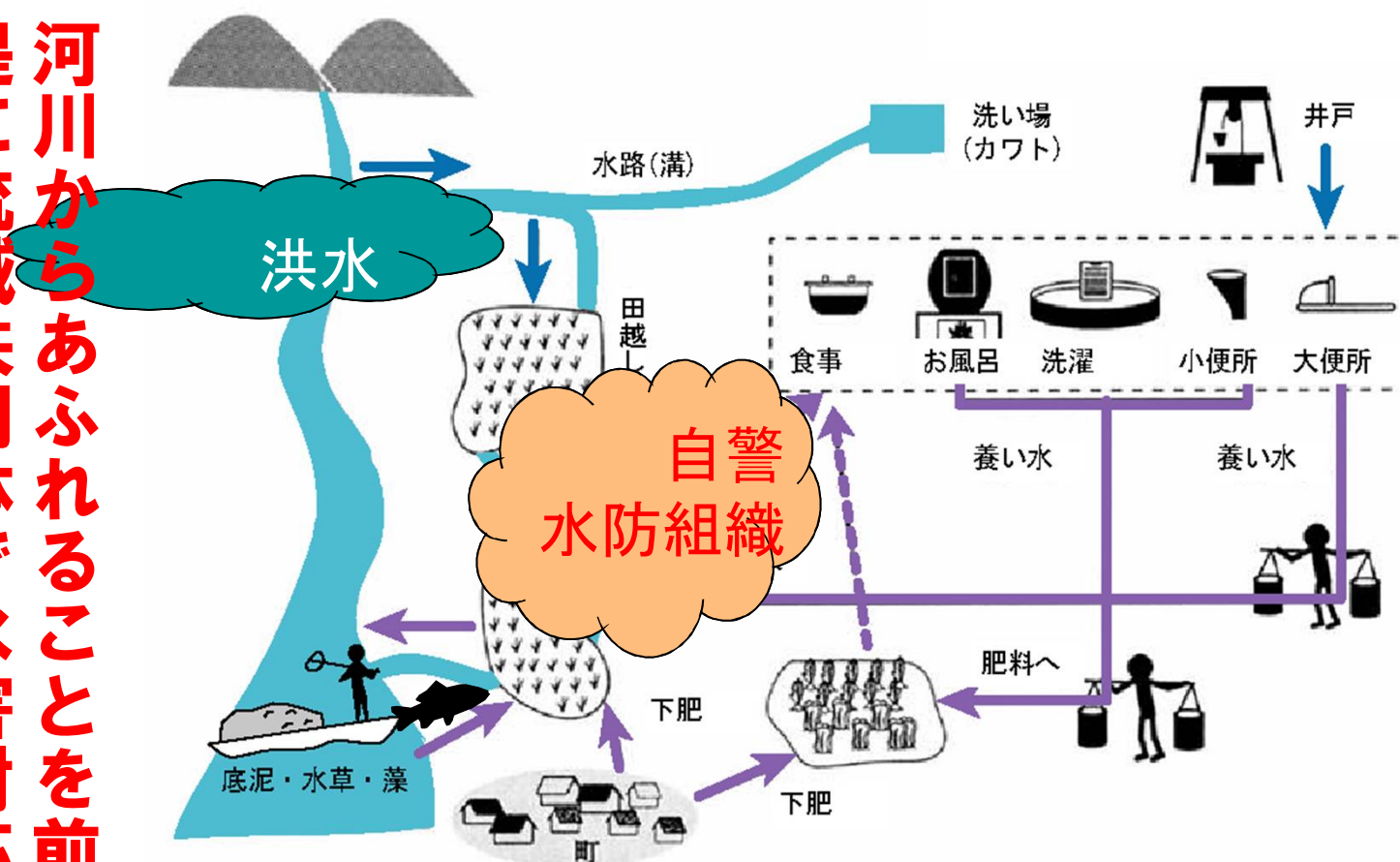
「不浄をしないはばかり意識」

“近い水”が生きていた時代

循環と使いまわし、自己管理の時代

■ 水システム模式図 江戸～明治中期(昭和30年代まで)

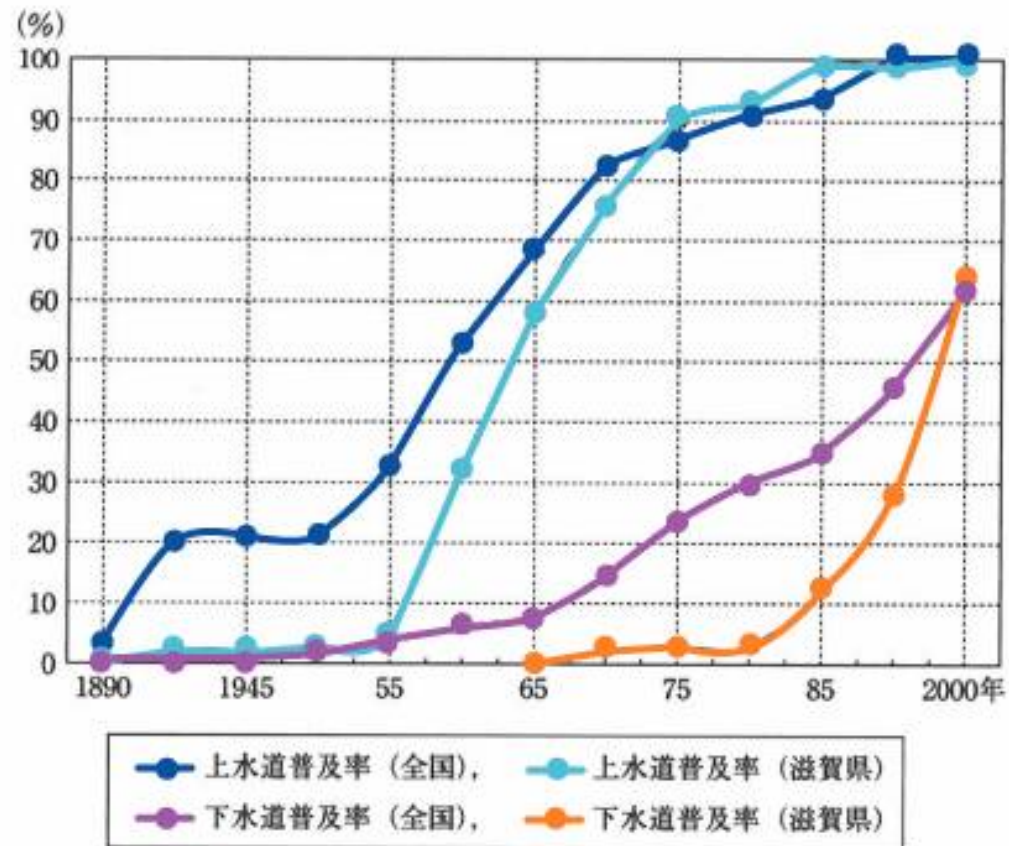
河川からあふれることを前
提に流域共同体で水害対応



水の使い回し・循環

出典: 嘉田由紀子:『環境社会学』、岩波書店、2002、P15

上下水道化という社会変化



琵琶湖辺の上下水道の
変化

水と人の3種の距離概念

1. 物理的距離(モノ)

普遍的尺度で計測可能な距離(*キロ、*メートル)、計測する自然科学的知が前提。

2. 社会的距離(コト)

社会関係にひそむ親近性の程度
制度としての社会組織、この距離を縮小することが、社会参画・自治論とつながる、社会関係性の知が前提。

3. 心理的距離(ココロ)

人が主観的に感じる近さの程度
情報の授受、行動への動機づけ、満足、幸せ感と深くつながる
共感的知が前提。

“近い水”から“遠い水”へ 近代化過程での行政管理化

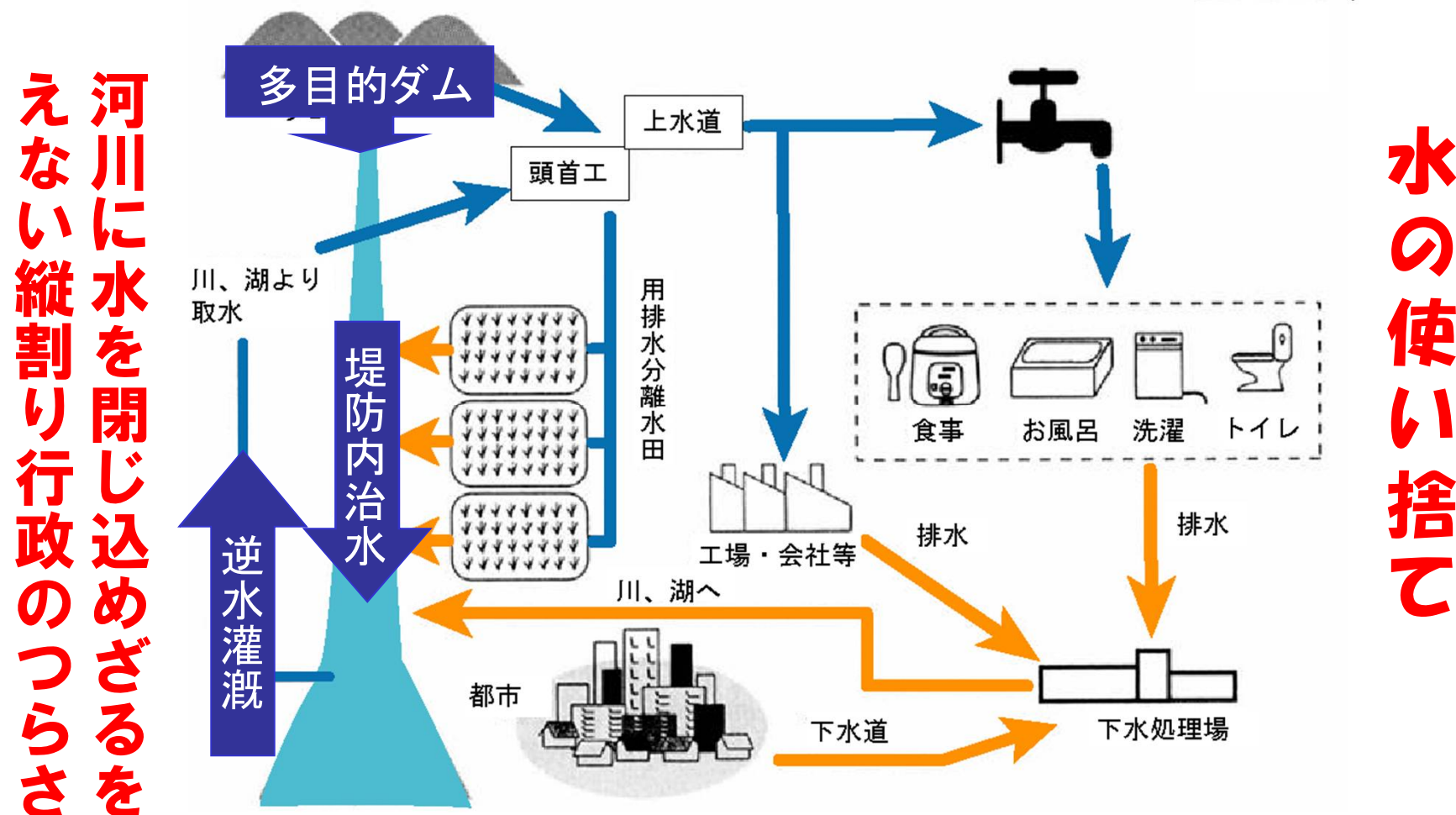
- **第1期:「近い水」共存期**:江戸時代から明治時代中期まで、藩政村の自治機能、多機能型水組織(治水・利水・環境組織の未分化、自己管理時代)、「あふれることを前提とした治水=流域受け止め型治水」
- **第2期:「遠い水」の出現**:明治22年町村合併、明治29年河川法制定、「河道閉じこめ型治水政策」の拡大、官僚的制御論の登場(水量計測)、地主制度の拡大、機能別水管理組織の拡大(発電、都市用水需要)

“近い水”から“遠い水”へ、そして 今、“近い水”を取り戻すために

- **第3期:「遠い水」の浸透・完成期**:昭和20－30年代、昭和20年代の洪水多発、「国土総合開発法」「水資源政策」「多目的ダム法」、高度経済成長、新河川法(昭和39年)、確率洪水・基本高水論の登場、「**中央管理的制御論の完成**」、「治水公費主義」「水利権許認可主義」
- **第4期:行き過ぎた「遠い水」への反省と「近い水」の再生・創生**:平成9年河川法改正、「環境」概念の導入、「住民意見の反映」、河川整備計画、低成長時代、「超過洪水」の認識、「水需要抑制」、新しい「**流域型治水**」の必要性、淀川水系流域委員会の挑戦

“遠い水” による水系閉じ込め型水システムの完成

■ 水システム模式図 平成年代 水の使い捨て



出典: 嘉田由紀子:『環境社会学』、岩波書店、2002、P15

徹底した聞き取り調査・生活者目線からみえてきた望ましい環境像とは？

(1) 多種多様な生き物

「この川にはホタルが顔にあたるくらいたくさんいた」

「ボテジャコもいっぱい」「田んぼも魚で溢れていた」

(2) 生活の中で生きていた湖と川

「この川からは風呂水をくんで洗濯をした」

「この川の水は昔は飲めたのに・・・」

(3) 子どもたちの遊び場としての水辺

「毎日、川に魚つかみにいった」

「えかい(大きな)ナマズをつかんだことはわすれられん」

(4) 小コミュニティによる自主的な水害対応と川への愛着

「大雨のとき、堤防の見回りを自分たちでした」

「堤防直しも自分たちでした。川は私たちのもの」

⇒ 「水の汚染」とは、個別水質や物質の状態だけではない。

人びとが水との関係性の総体のものがたりを失ったことをも意味するのではないか？

日本の自然と文化の関係性は 重なり型モデル 生物と文化の多様性は重なる

対立型社会モデル



重なり型社会モデル

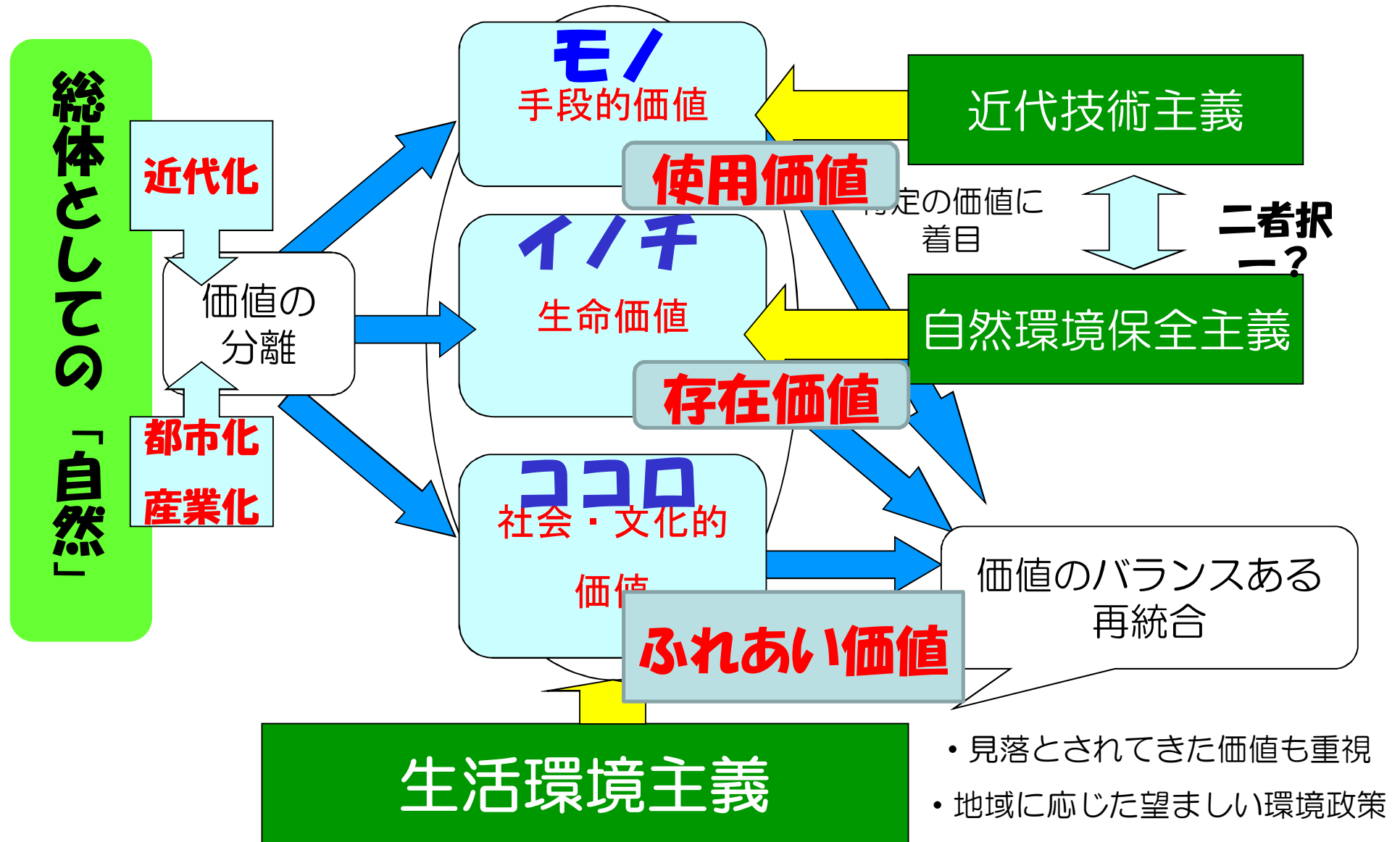


→ 「**守いをする**」

27
という**感覚**

価値論的に見た環境の多面的意味

内なる近い自然を取り戻すために価値観の転換を



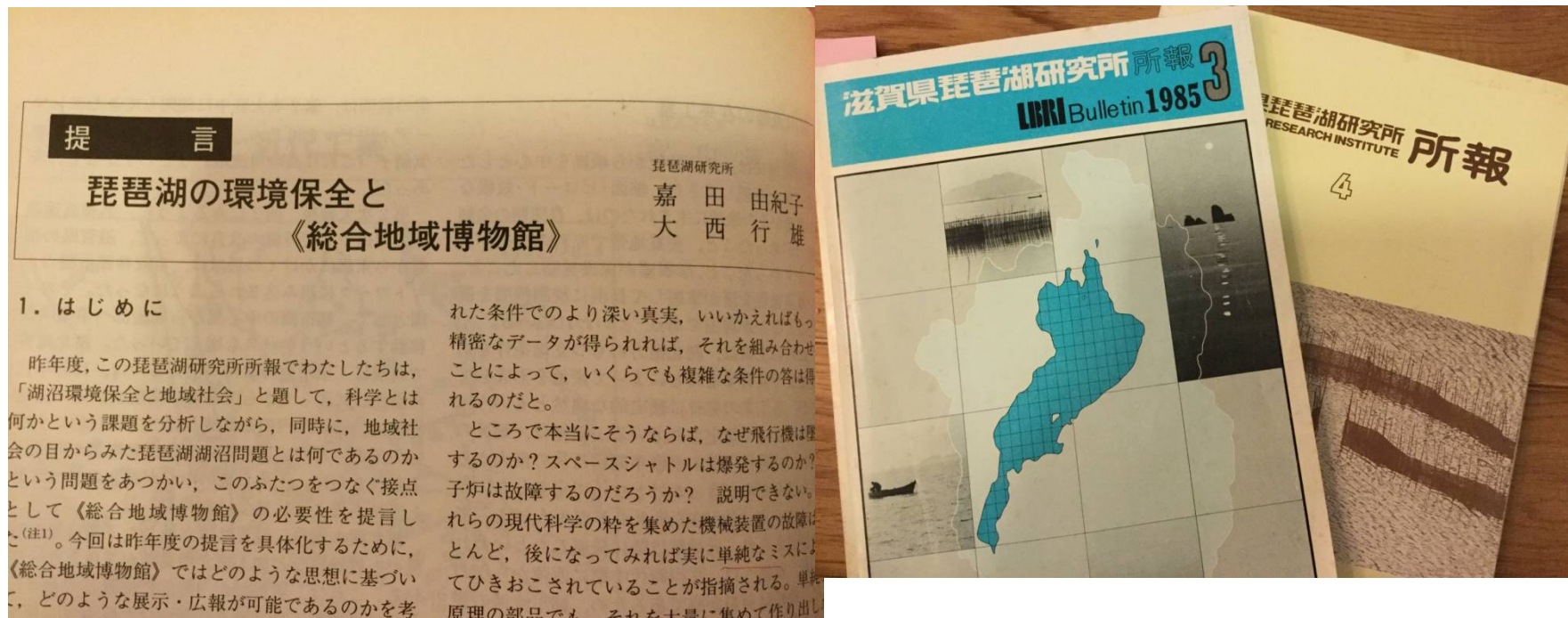
(3)

生成する環境学は、「天下い理論」ではなく「たたきあげ理論」

**生活現場で生み出される
みっつの環境価値を
見える化した琵琶湖博物館**

生成する環境学理論に根差した 琵琶湖博物館の企画・構想・建設・ 運営

見えない琵琶湖を見えるものに！ 環境の自分化！



科学知、生活知の補完を原点に 博物館の理論的道筋をつくる

＜科学知＞

- ・ 計り、数える知識
- ・ 専門家が、それぞれの領域の知識蓄積のために集める。
- ・ 自然のメカニズム、社会組織の仕組みなど。
- ・ 因果関係、数値化、平均値、グラフ、図
- ・ 同業集団のレビューにより評価がきまる。

＜生活知＞

- ・ 五感（感性）から知識へ
- ・ 住民、生活者がそれぞれの興味に応じ集める。
- ・ 生活文化、自然と人のかかわりなど。
- ・ 物語、絵、歌など多彩な表現が可能
- ・ 生活者感覚（心性）から、もっともらしい、納得がいくかどうか評価軸。

琵琶湖博物館の三つの理念

(1989年～1992年)

*テーマをもった博物館

「湖と人間」というテーマにそって、未知の世界を研究し、成長・発展する博物館

← 研究をベースに、未知の一次資料を確実に集める

*フィールドへの誘いとなる博物館

魅力ある地域への入り口として、フィールドへの誘いとなる博物館

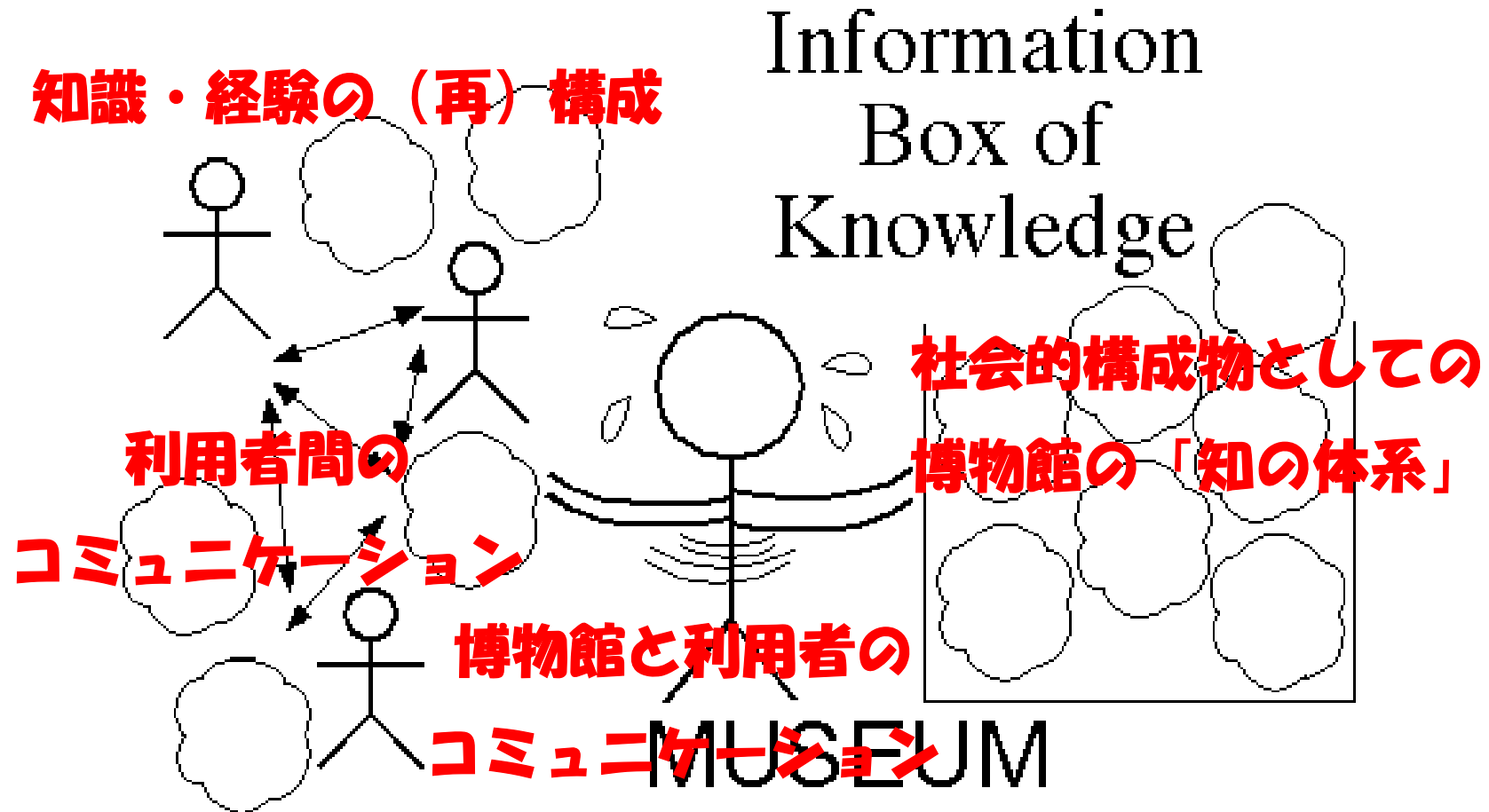
← 琵琶湖そのものを博物館に閉じ込める自己矛盾
「博物館という建物は必要悪(善)」

*交流の場となる博物館

・多くの人々による幅広い利活用と交流を大切にする博物館

← 博物館法でいう「普及」ではなく、双方向性をふくんだ「交流」
地域住民自身が学芸員、参加交流型博物館(第3世代の博物館)

双方向性を埋め込んだ住民参加 型の「新しい博物館像」

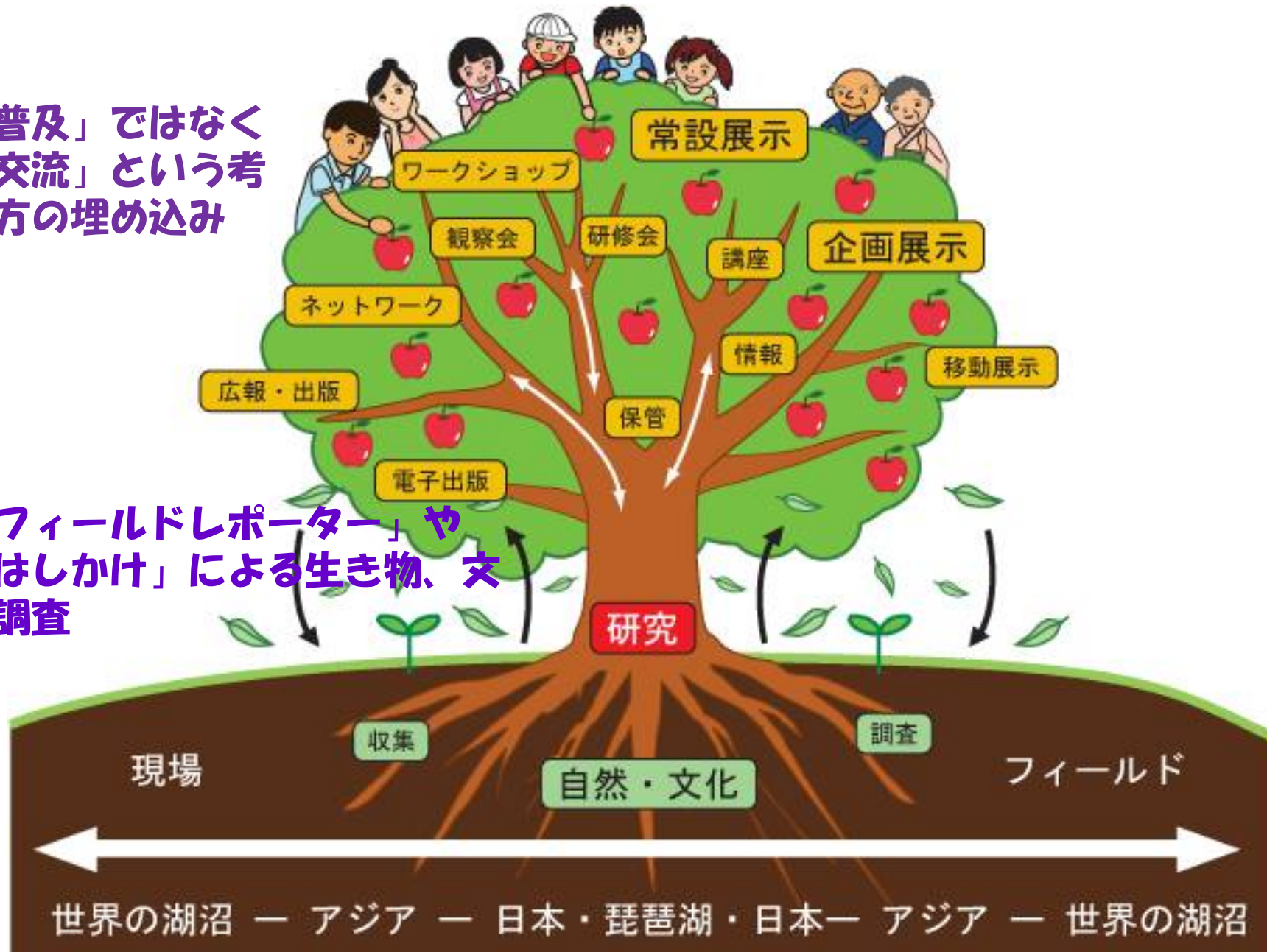


(戸田孝 琵琶湖博物館資料より)

琵琶湖博物館の活動、リンゴの木イメージ

「普及」ではなく
「交流」という考
え方の埋め込み

「フィールドレポーター」や
「はしかけ」による生き物、文
化調査



環境の「自分化」 (personalization)という表現を産み だした「琵琶湖博物館」準備室時代

3つの時代：歴史は地層のごとき重なり

- (A) 自然史の時代 (10の6乗)
- (B) 人類史の時代 (10の4乗)
- (C) 近代史の時代 (10の1乗) (「自分化」できる時代)



- ・ 琵琶湖博物館の昭和30年代再現展示
- ・ まるごと昭和30年代の“もったいない”を
いかした「近い水」の暮らしぶりを情景再現
して展示。「私もここにいた」「自分
化」のよびかけ。
- ・ 実在の家族生活をまるごと移築
- ・ 昭和39年5月10日午前10時、彦根市本
庄地区、富江家
- ・ 環境展示は「モノ」ではない、
「関係性=ものがたい」の表現

ホタルダスまとめの本 (「私たちのホタル」1号ー10号) 琵琶湖博物館での展示 ーホタルは文化昆虫、ホタルの自分化ー



水環境カルテから見えてきたこと



- 水や栄養分の「使い回し文化」が川や湖の汚染を未然に防いでいた。

- 「始末して」「もったいない」という生活意識が生きていた

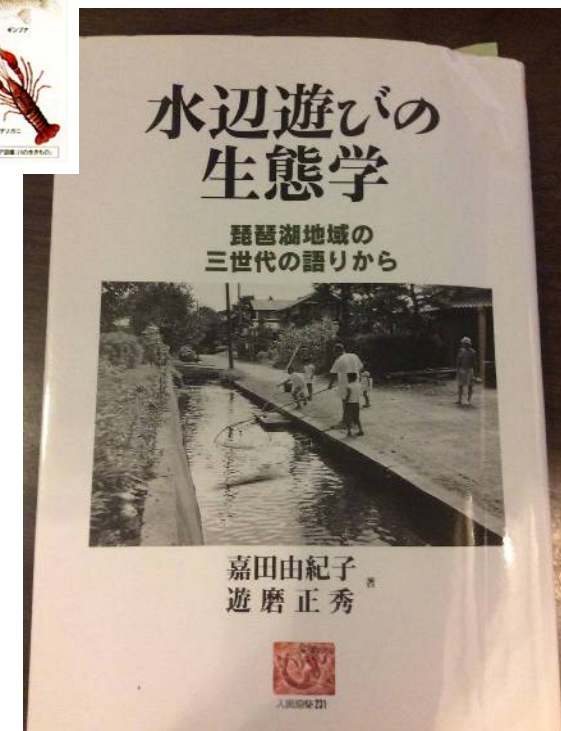
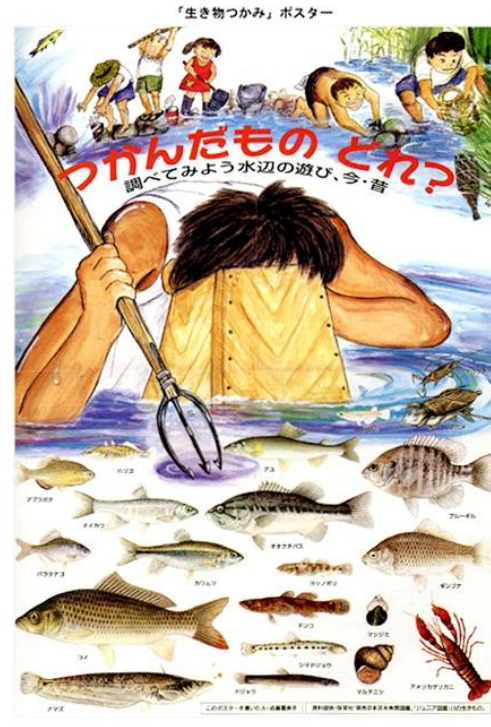


- とない近所の「わきまえ」の中で水への信頼が生きていた

(3) 子どもたちの 遊び場としての水辺

水辺遊び調査
(1992年ー19
95年)

三世代調査小学校5年
生:2000名
その父母:2000名、
祖父母:2000名



子どもたちにとっての 「近い水」から「遠い水」へ

(1) 都市化、工業化の中で、自然の摂理からますます遠ざかる人間の暮らし

- ・しかし、人は自然の摂理から完全に解放されることはない。人類誕生後ずっと人は自然と近い暮らしをしてきた。自然と遠い暮らしはほんのこの1世代だけ！

(2) 「脳が自然を求めている」

→「自然の破壊は精神の破壊」、子どもたちに自然の破壊、精神の破壊の見えない影響が現れているのでは？

(3) 内なる自然：身体、精神の自然性

外なる自然：空気、水、大地、生き物、
そして太陽なしに人間は暮らせない

(4)

**知行合一(中江藤樹) 研究成果
を政策に 滋賀県知事としての
挑戦と実践(Transdisciplinary
Approach)**

なぜ滋賀県知事選挙に？ 三つのもったいない政策

(1) 官僚主導、政治腐敗の中での高コスト体質の公共事業

→借金財政、次世代つげ回し(財政リスク)

- ・省益主義から抜け出せない官僚、一方で、利権誘導から抜け出せない政治家
- ・高コスト体質の公共事業、ダムが典型(新幹線新駅は地元政治家利権誘導)

(2) 「命を生み出す」人口減少社会リスクの実態が政治家にみえていない

「女・子どもの世界」として本格人口政策に取り組めない政治(人口リスク)

- ・「女性が仕事に出るから子どもが生まれない」「3歳母性神話」という誤った認識。
- ・「子育てか仕事か二者択一を迫るから子どもが減少した」！あたりまえの人びとの願い(家庭をもって子どもを生み育て、年老いたら孫と暮らす)があたりまえに満たされる社会を求めたい。

目の前に、生まれたばかりの三人目の孫の顔をみて最終的に決心(孫高1、小6、小3、4歳、1歳)。

(3) 国政である琵琶湖総合開発による自然破壊(環境リスク)

- ・①戦後食料難時代の内湖埋め立て、②高度経済成長期の水資源開発、下流重視の治水政策。結果として、生きもの、生態系への配慮を欠いた琵琶湖改変。
- ・官僚的、家父長的、中央集権的価値観への疑問と怒りと正義感
- ・このままでは日本に未来はない、
- ・政治は価値観のぶつかり合いと権力による未来選択、政治に学問の知恵を！

←決意の背景には環境社会学研究者としての学びと経験があった。

“もったいない”とは？

- (1) 金や物を節約する**
- (2) 物事や人の本来の力が発揮され「ありがたい」と思う**
- (3) 物事や人の本来の力が失われ「心惜しい」という気持ち**
- (4) 物事や人の本来の価値に対する尊敬
(Respect)の気持ち**
- (5) 日本だけでなくアジア圏域に普遍的に通底する仏教的な基層信念にも通じる、生きとし生ける存在への敬意、尊敬
環境共生の思想にも通じる。**

2006年 滋賀県知事選挙へ (環境調査の仲間が結集)



2006年4月18日

近江舞子浜にて

加藤登紀子、日高敏隆、今森光彦 三人の応援



「軍艦」 VS 「手こぎ舟」 選挙

- 2006年の滋賀県知事選挙は、こう表現された。
 - 相手は自民・民主・公明・270団体推薦の現職
- (1) 選挙期間中は、「**泡沫候補**」といわれた嘉田陣営。現職優勢と伝えられていたが、投票日近くになり、だんだん人びとの投票意識が明らかになるについて、霧がはれたように、湖上に「手こぎ舟」がたくさんあることがわかった。
 - (2) 選挙後の政策実現のための、知事としての覚悟では、時としてあまりに批判がきつくて、心が折れそうな時、「**鉛筆1本の勇気**」で、既存の政党や団体の推薦を無視しても、嘉田に投票をしてくれた一人ひとりの思いと願いを思いおこす。すると、マニフェストで約束した**政策実現への力、背中から住民に押してもらっていることが実感され、勇気がわいてきた。**
 - (3) **選挙をどう問うかで、政策実現の筋道が規定される。**
- 特定団体、特定政党の推薦を受けていないことが、マニフェストで約束した**政策実現にまっしぐらにすすむことが可能となった。**
 - (4) **選挙は戦いではなく、「熱伝導」参加のプロセス！**

孫6人、家族も選挙と政治生活を 後押ししてくれた！



**2006年7月2日 一期
目の知事選挙当選日**

2015年6月12日 6人目の孫誕生

**2010年7月11日
二期目の知事選挙当選日**

みっつの批判を逆手に！

「よそもの、女、学者に知事がつとまるのか？」という批判にむきあいながらの8年

- * **よそものだから** 滋賀県の強みがわかり、「ないものねだりではなく あるものさがし あるもの活かし」で、「地域の魅力まるごと産業化」地産地消型の経済、文化・環境政策をつみあげられた。
- * **女だから** 自ら仕事と家庭の両立を40年間苦勞してきたので、女性参画、人口減少社会のリスクと対策の必要性を見極め、地方からの人口・家族政策をすすめることができた。
- * **学者だから** 「HOW」（いかに）という行政技術（法律や予算）や手続き論だけにとらわれずに、「WHY」（なぜ）の理論に則り、ぶれずに政策実現ができた。

(1) 知事として実現したかったのは人と自然、人と人、人と歴史が近い地域社会

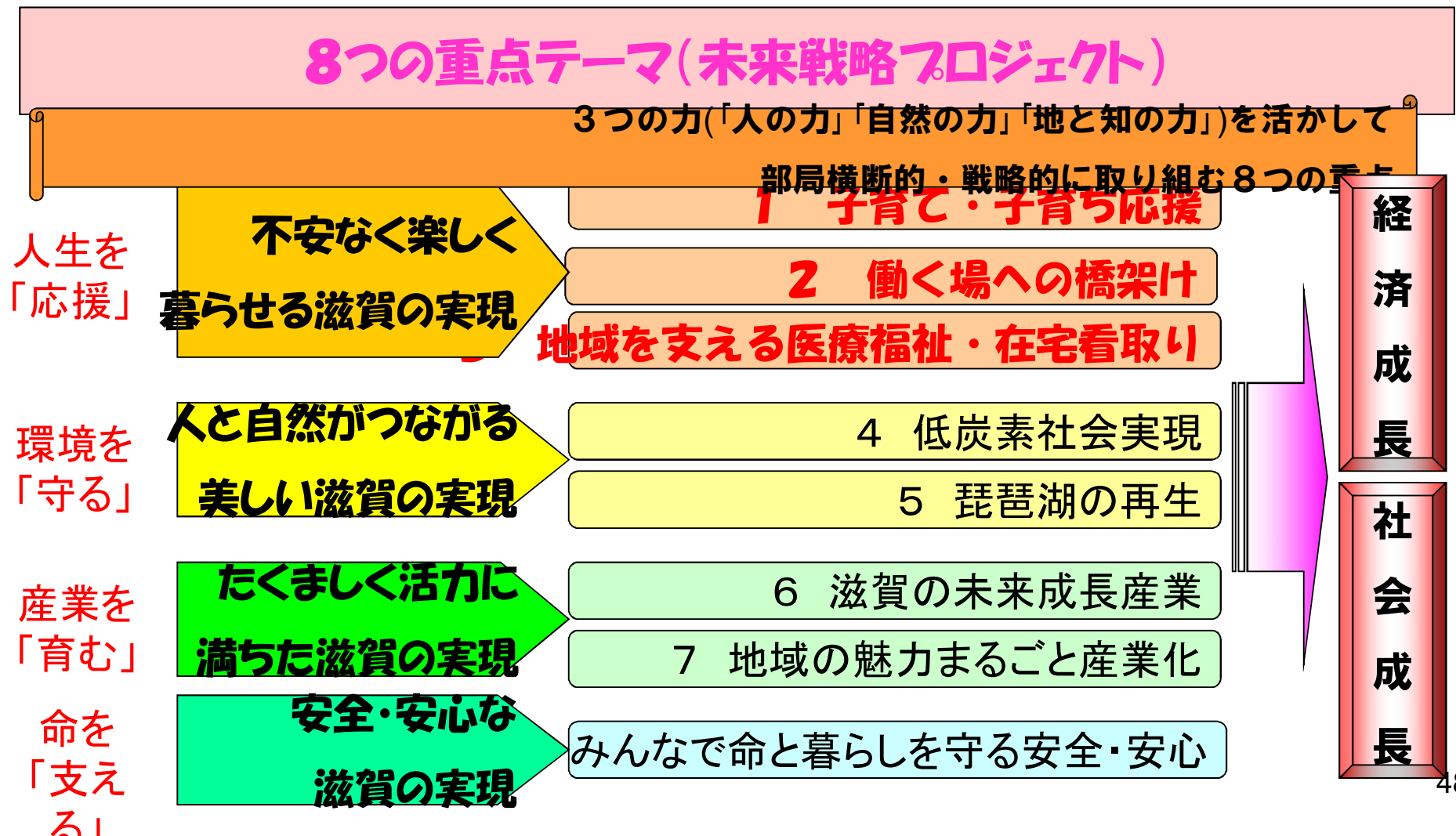
(2) 誰もが希望する子どもを産み育て、家族をもって、幸せに暮らせる社会づくり

(3) 子どもが生まれて「おめでとう」、幸せな人生の大往生を「ありがとう」

(4) 近い水、近い食、近い人、近いエネルギーを、近代化社会に活かしつつづけること。



(5) 命と子育て、環境にこだわり 住み心地日本一の滋賀を ～嘉田県政の8年の成果～

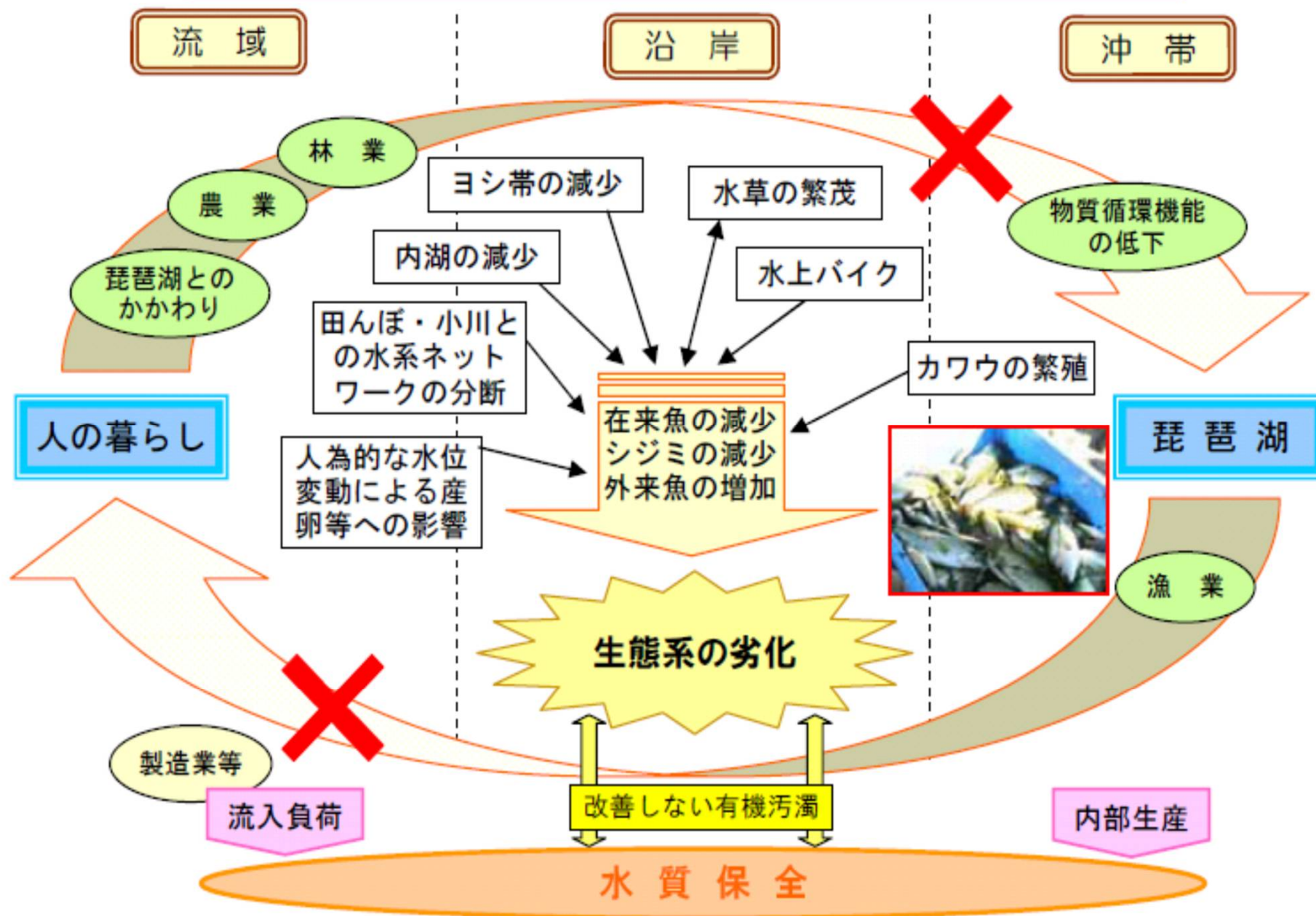


滋賀県知事としての環境政策

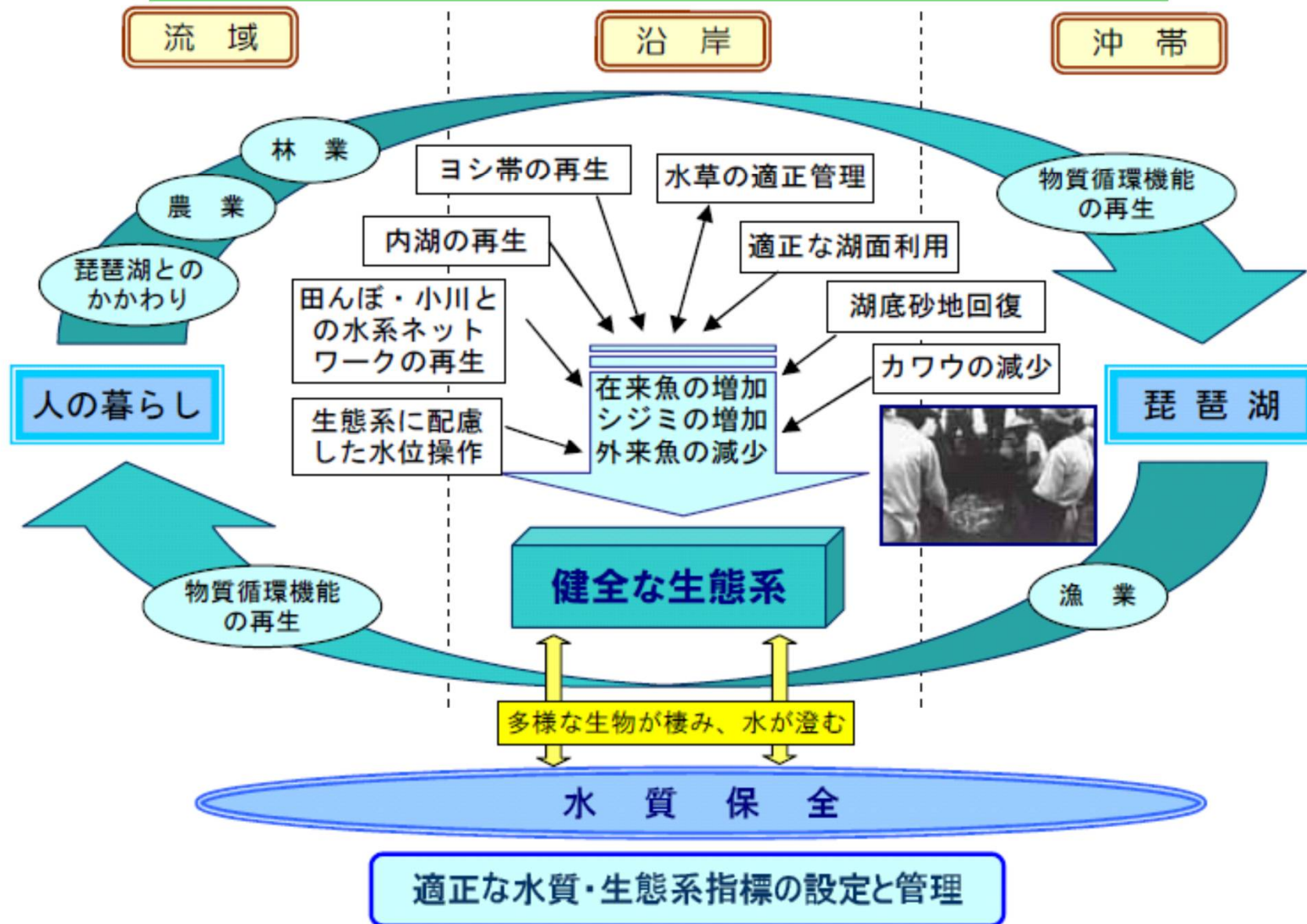
- ・(1)固有種・漁業生産を支える沿岸域・内湖・水田連携へ
内湖再生、水陸連続性の再生(魚のゆいかご水田)
 - ・(2)集水域最上流部の水源巨樹・巨木林の保全へ
 - ・(3)河川環境を切断するダム回避から流域治水へ
30年の水害被害調査から生活環境主義による流域治水
 - ・(4)生命文化複合体の琵琶湖を日本遺産に
文化としての環境価値を明示化して、地域の誇り創出へ
 - ・(5)原発問題における「被害地元」としての「卒原発」政策
「被害構造研究」から「多重防護」の避難体制強調
-
- ・今から思い起こすと、嘉田にとっての知事職への挑戦は最も効果的な「社会運動」の実践だったのではないか？環境運動研究から学んだヒントは大きい。
 - ・学者ではできないことが、知事として実現できた。
 - ・新幹線新駅等公共事業の見直し、ダム凍結・中止による環境保全、流域治水条例、琵琶湖と人びとのかかわりの再生、「卒原発」政策、(少子高齢化対策)

〔現在〕

琵琶湖と暮らしの関わりの方断

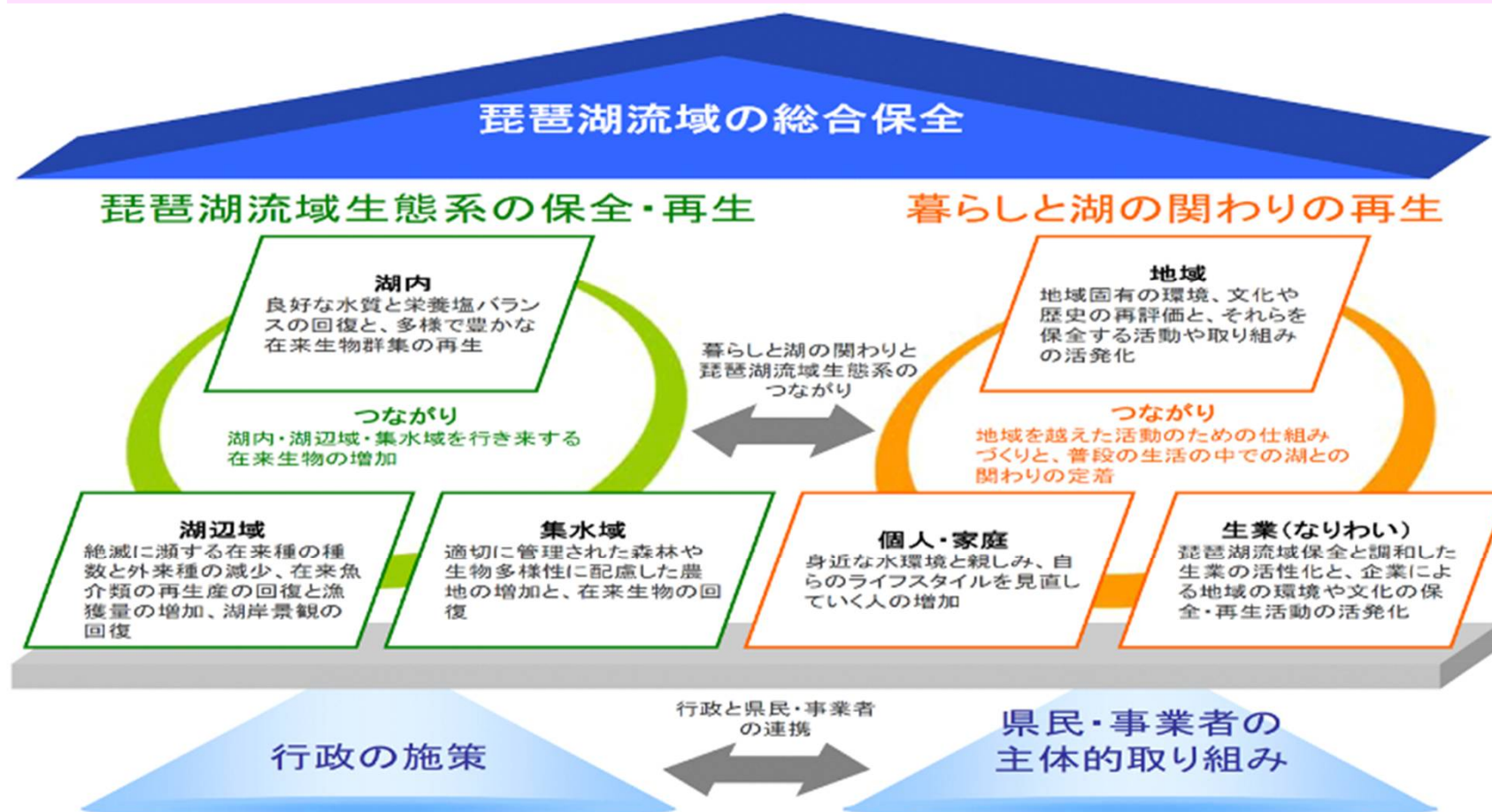


〔将来〕琵琶湖と暮らしの関わりの再生



流域生態系保全と関わりの再生

地域社会を含めた様々な組織が環境保全活動で必須となる、相互の社会的ネットワークや協働の仕組みの、**きっかけづくり**や**支援**



琵琶湖の漁獲量の大幅な減少！

滋賀県環境白書2014

◆ 類別漁獲量の推移

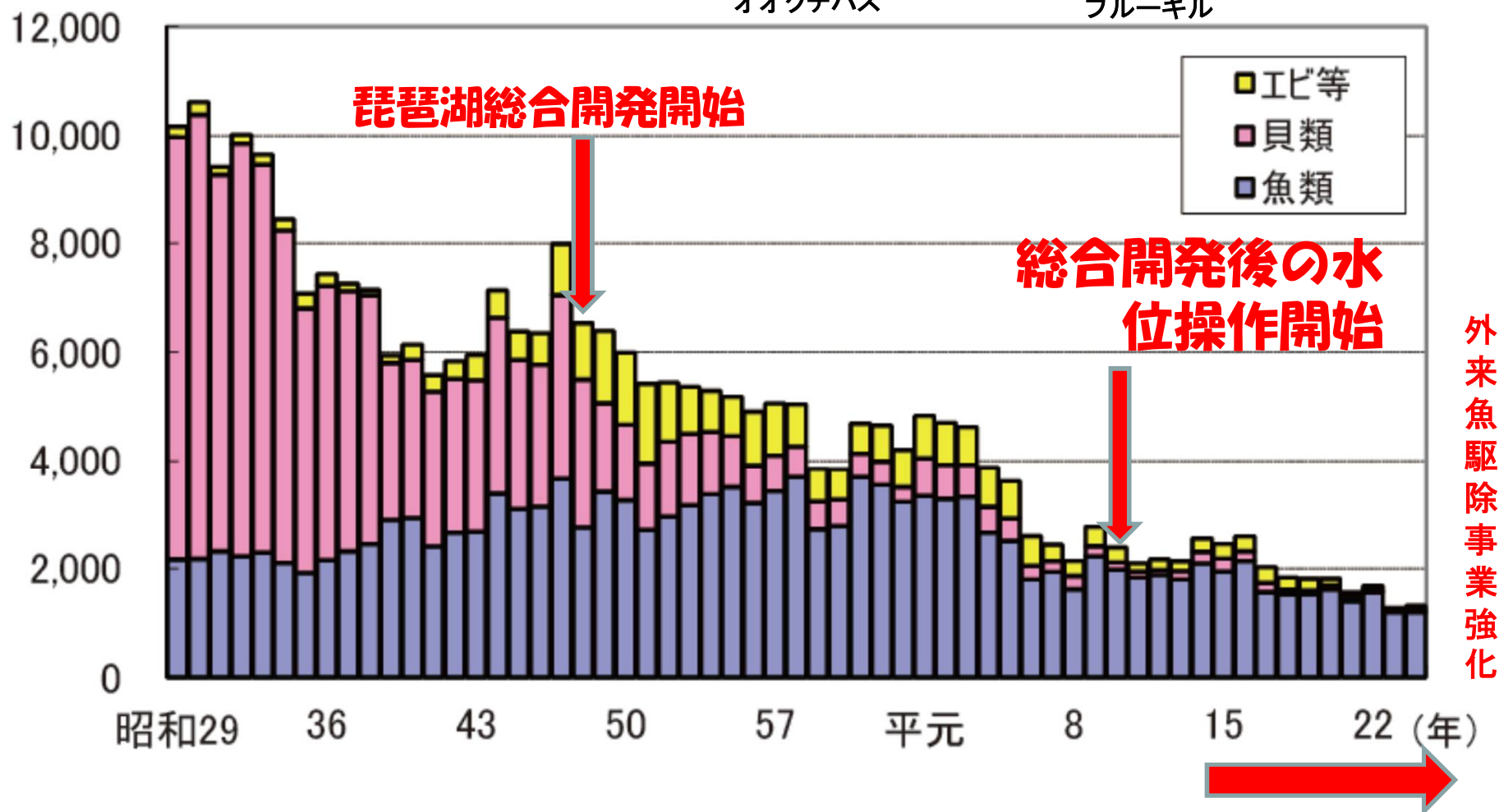
漁獲量(t)



オオクチバス

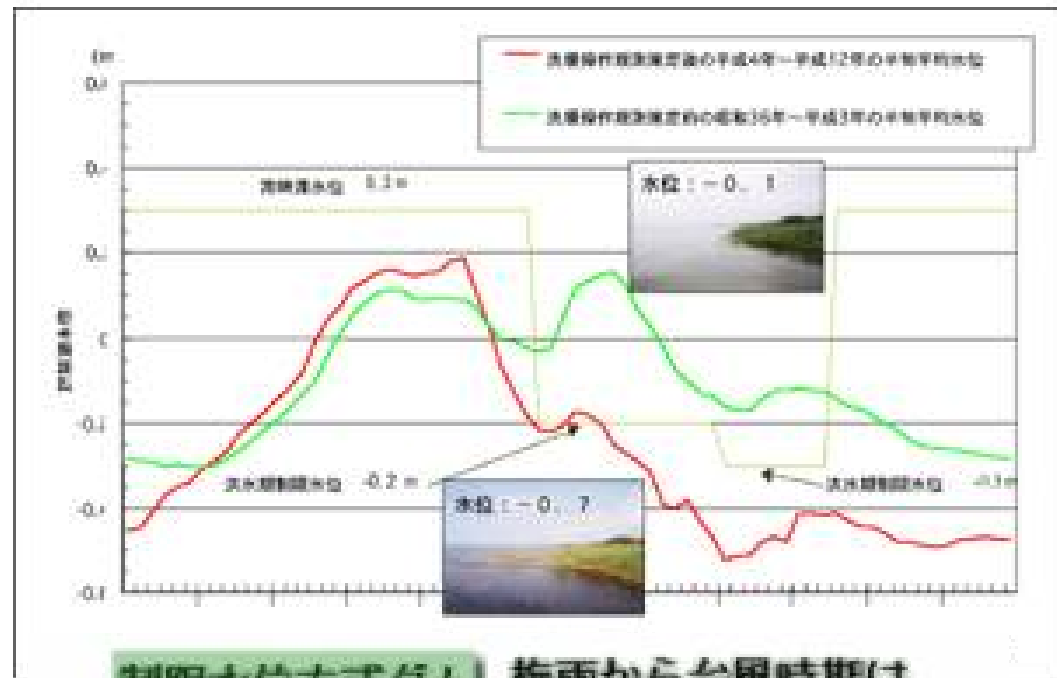


ブルーギル



琵琶湖総合開発での治水・利水を目的とした人為的な水位操作

■ 瀬田川洗堰 操作規則策定前後での琵琶湖水位の比較

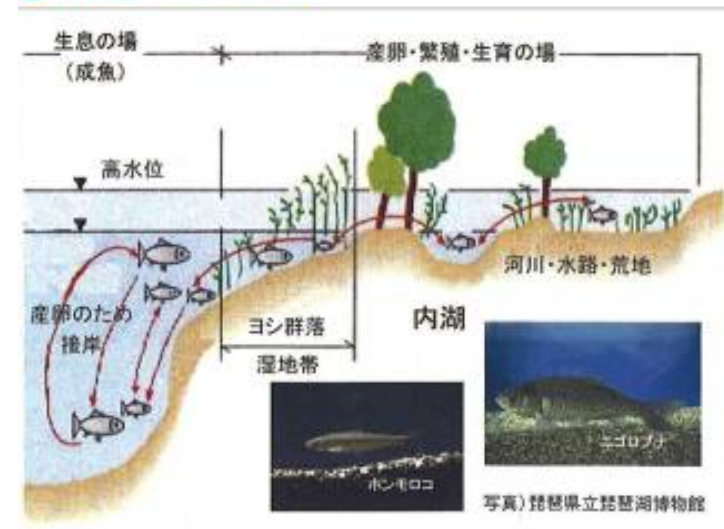


制限水位方式ダム 梅雨から台風時期は貯水位を下げて！



在来魚介類の悲鳴が 聞こえますか？

■ 生態系と調和した琵琶湖水は夏期への改善



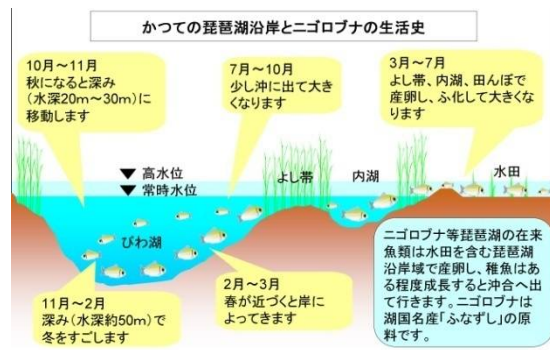
魚のゆりかご水田プロジェクト

湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻そう！〔“うおじま”再生〕

琵琶湖周辺の
田園環境



- 湖岸の水田は、琵琶湖の水位の変動による浸水被害や田内による農作業など、農家は大変苦勞されていました。
- 一方で、えさになるフランクトンが豊富であたたかい田んぼは、湖魚の産卵・繁殖に格好の場所、まさに「魚のゆりかご」としての役割を担っていました。

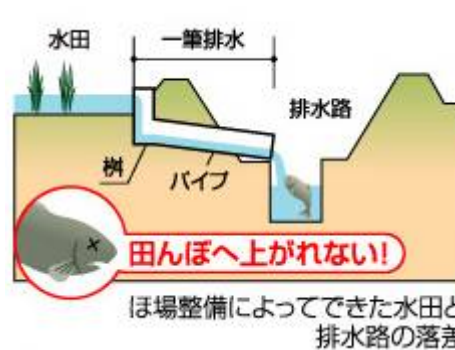


- 琵琶湖と田んぼの間を自由に往き来していました。

昭和40年代から現在にかけて



- ほ場整備により、生産性の向上や農業経営の改善が図られました。
- 一方で、乾田化のために水路を深くしたため、魚が田んぼに遡上しにくくなりました。



- 排水路の整備に伴い、琵琶湖と水田が分断されました。

魚のゆりかご水田プロジェクト



- 「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」などを活用し「魚のゆりかご水田プロジェクト」に取り組み、農業生産性を維持しながら、魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻します。



- 魚道の設置により水位が階段状に田んぼの高さまで上がり、湖魚が田んぼで産卵成育

平成20年頃 銘木需要の高まりによる伐採の進行



- 大径木で優良なトチノキの母樹はほとんど伐採。(樹齢200年～800年)
- 特に良質な部分(1番玉、2番玉)だけを、ヘリで搬出。
- 巨木群の存続が困難な伐採進行の速さ。



伐採寸前の県下最大巨木へ、地元林家を案内
(2010年10月11日)



県下最大トチ/キ巨木の伐採回避交渉成立(10月12日)



る。嘉田由紀子知事が、十五日に県庁を訪れた地元住民の要望に明らかにした。知事は「目の前の木一本守れないなら行政の意味がない。汗をかかせていただく」と意欲を示した。
(木原育子)

地元林家から県知事への要望書提出(10月15日)



巨木の水源の郷をまもる会の設立(10月31日)



地元住民による最初の保全活動(11月1日)

最大トチ/キ巨木の伐採回避の交渉を成立させた

地元林家 伴正男氏

一般参加者にトチ/キ巨木や源流の森について語る

伐採から守られた県下最大トチ/キ巨木見学会(11月23日)

河川環境を切断するダム回避から流域治水へ 生活環境主義による6つのダム凍結・中止、 日本初の流域治水条例制定(2006年~2014年)

←江戸・明治・大正・昭和河川行政の歴史から学んだ流域型治水を職員と知事が対話しながら戦略化。

←住民自身の「自助」「共助」から学び

←京都・大阪府知事と上下流連携・国土交通省による中央支配からの脱却



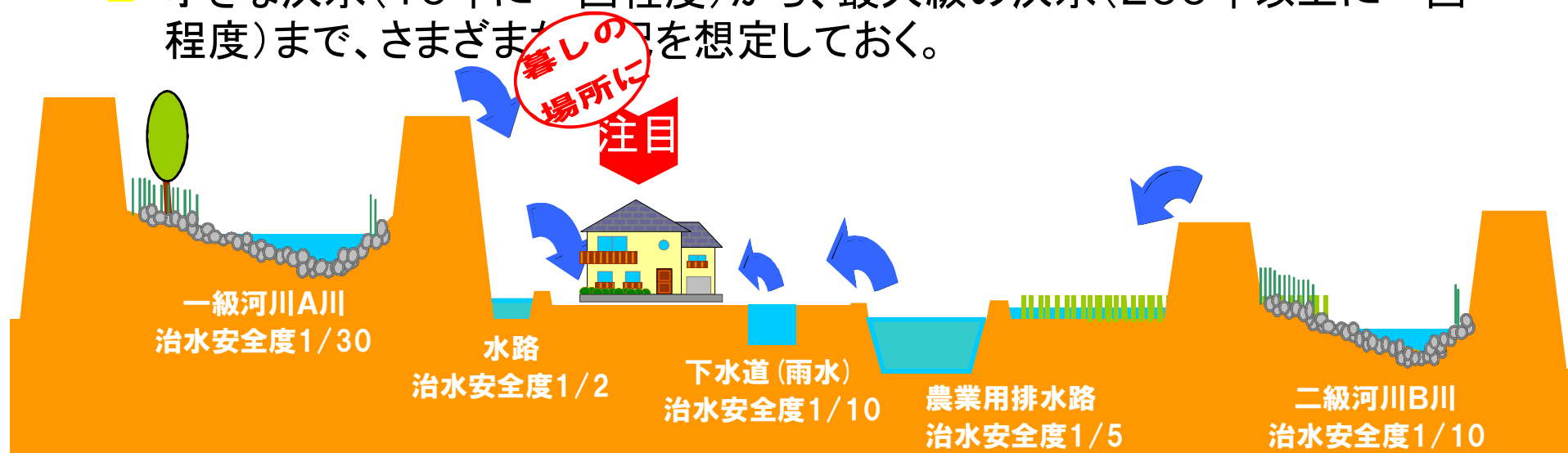
ダムだけ頼らない流域治水政策 『地先の安全度』 統合型政策の実現

～暮らしの舞台、生活者視点からの水害リスク評価～

- 流域やはん濫原での対策(まちづくり等)もあわせた治水を検討する場合、「河川施設ごとの(治水)安全度」ではなく、暮らしの舞台である「地先の安全度」を調べておく必要がある。**サービス供給側ではなく被害を受ける被災者、生活者視点からの防災・減災視点。**

(「地先の安全度」の調査にあたって)

- 生活圏である流域・はん濫原を取り巻く、河川や水路からの複合的なはん濫を考慮する。**(個別省庁部局別の縦割りではなく、横串政策)**
- 小さな洪水(10年に一回程度)から、最大級の洪水(200年以上に一回程度)まで、さまざまな**暮らしの場**を想定しておく。



(6)

ハードウェア、ソフトウェア、ハートウェアがバランスをもった琵琶湖の未来政策を関西とのつながりで！

**関西全域の皆さんに訴えたい
上下流連携の中での
琵琶湖の多面的価値**

近畿、1450万人の命の水源 琵琶湖

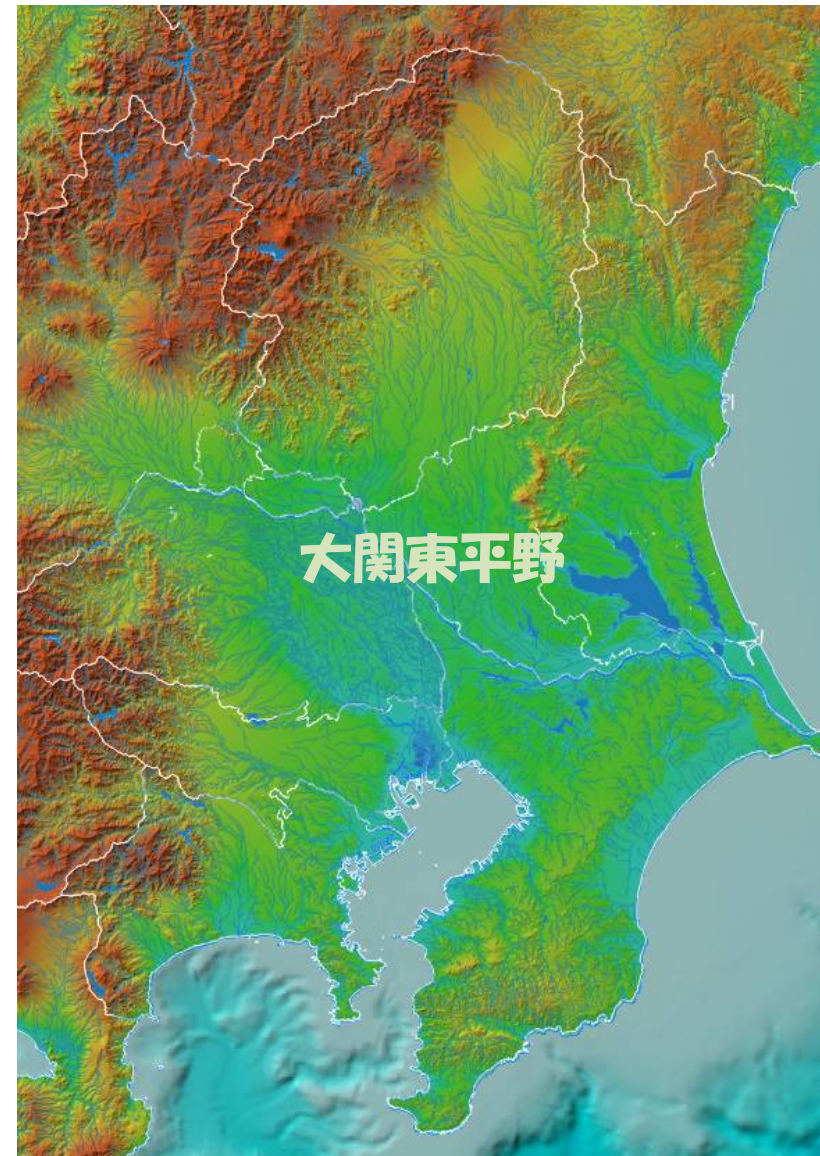
- 琵琶湖流域は、淀川流域の約47%
- 近畿約1,450万人が、琵琶湖からの水を水道水として利用



飲水思源という思想の
イメージ化、見える化



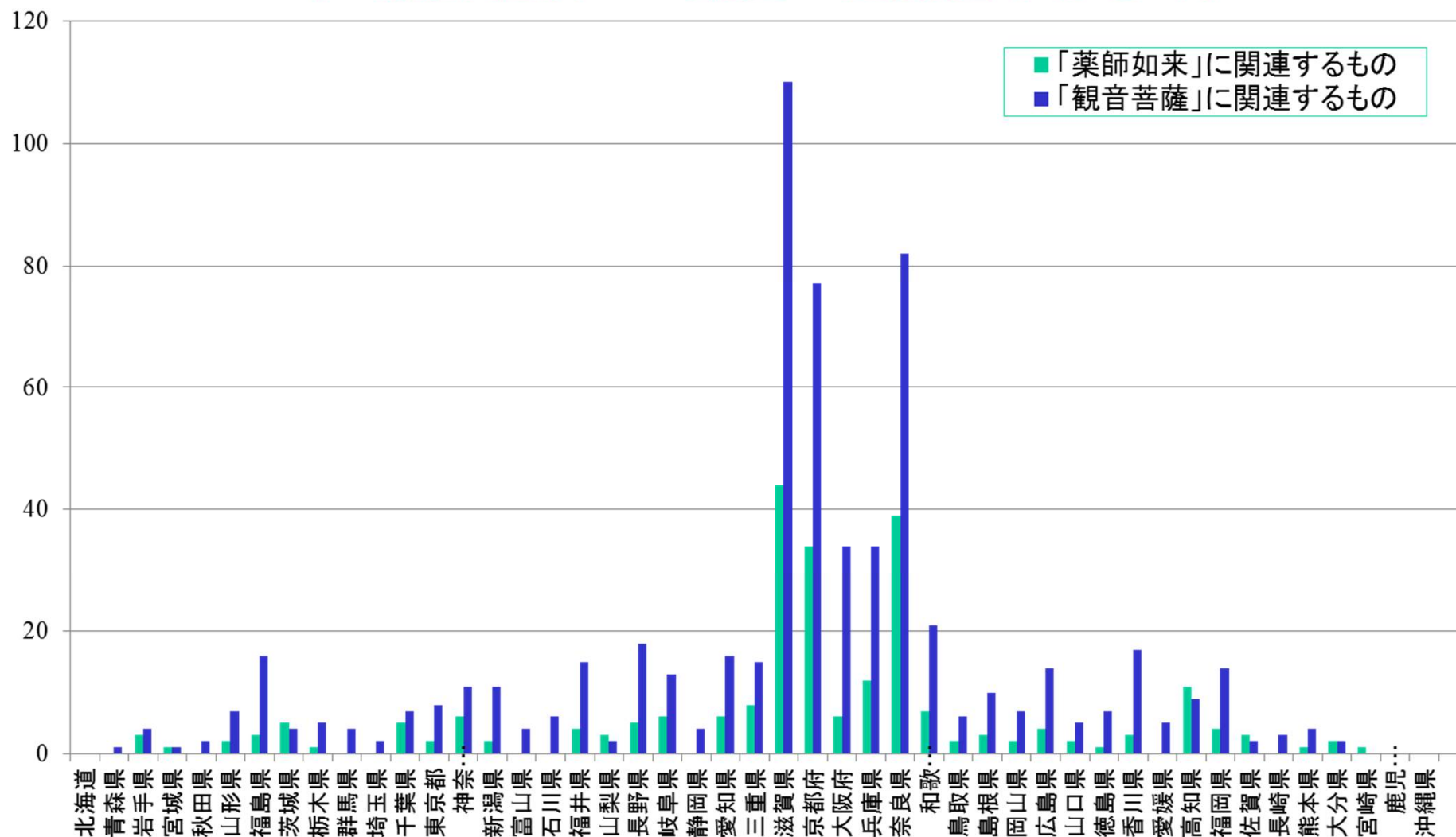
盆地文化連合の関西 大平野の関東 (つぶあん関西 vs こしあん関東) (水系文化の自然基盤)



出典) 国土地理院 色別標高図(海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成) および 国土数値情報の
河川・湖沼・行政界データから作成。

命・水にまつわる国指定文化財は 滋賀と奈良が拠点に！ (「薬師如来」「観音」に関連するもの)

63



出典)文化庁 国指定文化財等データベース(http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html), データベースから「薬師如来」及び「観音」のキーワードで抽出した件数をグラフ化。ただし、地域分布の傾向を得るため、博物館・美術館等に収蔵されているものは除く。

豊富な歴史資産の源でもある琵琶湖をストーリーの中核に据え、日々の暮らしにより育まれてきた水文化が日本遺産とされた。

1

・水と祈りの文化

2

・水と暮らしの文化

3

・水と食文化(伝統漁法)

水と祈いの文化



白鬚神社(高島市)

高島市所在の

「水と祈いの文化」は、

「近江の厳島」白鬚神社と、

「安曇川水運の神」シコブチ信仰
仰

- ・比叡山延暦寺の本尊＝薬師如来
- ・琵琶湖は天台薬師の池
- ・瑠璃光薬師如来を東側から登る朝日で照らすそのためには琵琶湖が必要
- ・江戸寛永寺本尊＝薬師如来、不忍池＝琵琶湖



シコブチ信仰(高島市)

水と暮らしの文化(近い水が生きる暮らし)



海津・西浜・知内の水辺景観



針江・霜降の水辺景観

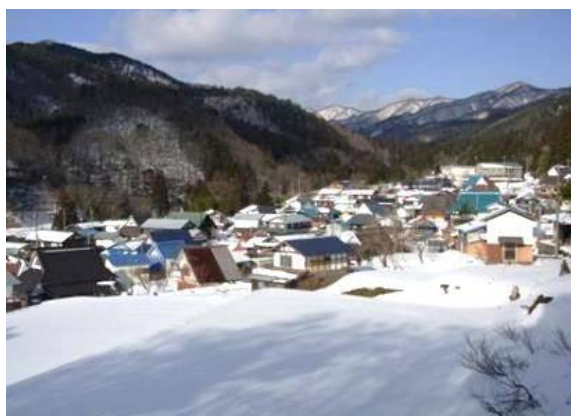


大溝の水辺景観

滋賀を代表する文化資産「重要文化的景観」



伊庭の水辺景観



東草野の山村景観



近江八幡の水郷

水と食文化（伝統漁法）



エリ漁



オイサデ漁



ヤナ漁(上リヤナ)

- ・ 10万年以上の古い湖：古代湖

- ・ 進化の展覧会場

- ・ 琵琶湖の生物は約2400種類

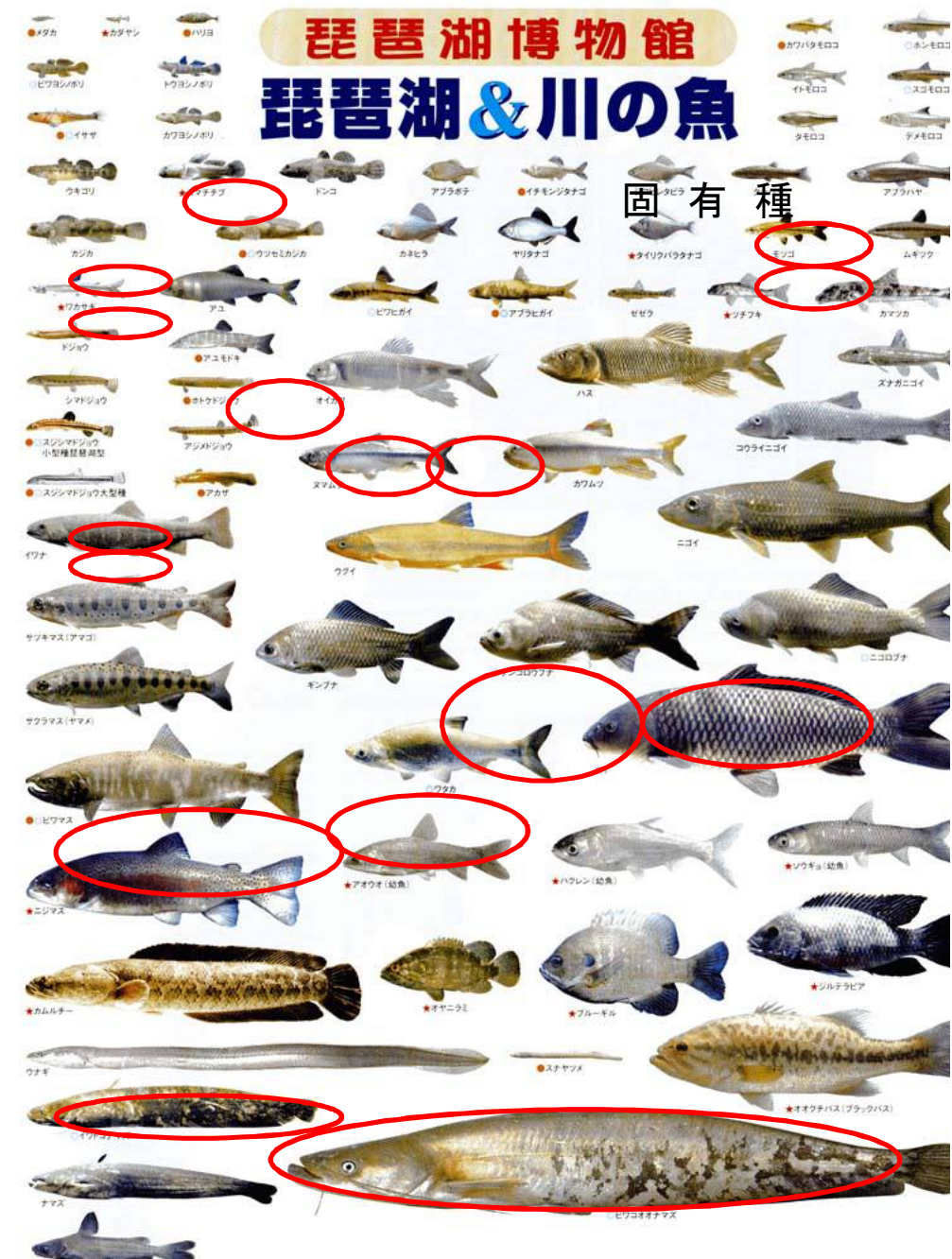
- ・ 固有種61種（底生動物38種、魚類16種）

- ・ フランクトン類は約1000種類

- ・ 外来種は人間が持ち込んだ、昭和40年代以降

- ・ ブラックバスを減らすには？捕獲

多数の固有種を含む豊かな魚類生態系



食べられる魚、固有種はおいしい！

縄文・弥生時代以来の伝統漁法に根差した水と食文化（日本遺産に）



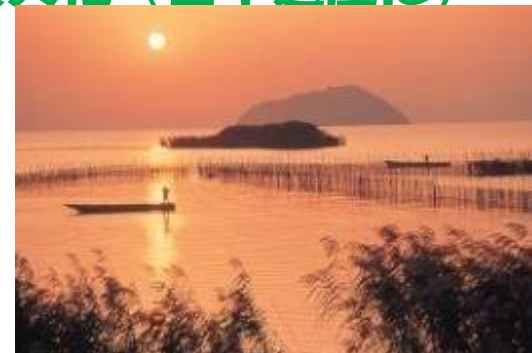
フナズシ



エビ豆



スジエビ



エリ漁



ホンモロコの炭火焼き



イサザのじゅんじゅん



ヨシホリ(ウロリ・ゴリ)



イサザ



オイサデ漁



ビワマスの刺身



ビワマス(アメノイオ)



コアユの天ぷら



コアユ

① 1917年～2017年 100年間 なぜ歌い継がれた？スポーツ抒情歌というジャンル このあと100年後に歌い継ぐために

琵琶湖周航の歌 100周年記念

加藤登紀子プロデュース
第1回
びわ湖音楽祭

スペシャルゲスト 出演

宮沢和史
ゴスペル
Le fa

TOKIO BAND / 吉井延隆(ギター)・鬼武みゆき(ピアノ)・早川哲也(ベース)・渡辺剛(バイオリン)・はたけやま裕(パーカッション)

2017年6月30日(金) 開場17:15 開演18:00
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール

入場料: S席6,000円 / A席5,000円 / 学生席1,000円 (※席指定・税込) 〇チケット発売: 3月16日(木) 10:00~

お問い合わせ / ☎090-1241-7160 (事務局小坂)

主催 / 琵琶湖周航の歌100周年記念事業実行委員会 共催 / 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
後援 / (申請中を含む) 滋賀県・滋賀県教育委員会、高島市・高島市教育委員会、長浜市・長浜市教育委員会、彦根市・彦根市教育委員会、近江八幡市・近江八幡市教育委員会
制作 / トキコ・プランニング 協力 / 登紀子倶楽部、サマーズプランニング、しがきん経済文化センター
協賛 / 株式会社 叶 匠庵、滋賀トヨペット株式会社、公益財団法人 平和堂財団、JAグループ滋賀、大阪成蹊学園グループ、新木産業株式会社

なぞり周航 歌碑めぐり
(2017年6/24-6/27)

大崎キャンプ場 今津 竹生島 伊吹山 長浜(豊公園) 彦根(彦根港) 6/26泊 長命寺 長命寺(境内) 彦根 湖岸緑地 板本 志賀の都(大津) 京大ボート部艇庫

赤枠: 宿泊地
黄枠: 歌碑
青枠: 上陸地

今津 6/25泊
比良山地
近江舞子
雄松が里(近江舞子) 6/24泊
和邇
愛知川河口
長命寺
ラフォーレ前
湖岸緑地
板本
志賀の都(大津)
京大ボート部艇庫

長浜(完成予想図)
彦根
長命寺

琵琶湖周航の歌100周年記念

語りわが友 熱き心

② ビワイチ 水辺の平坦なサイクリングロードの楽しみ(風景、文化、食)



③ Sea to Summit

モンベルと自治体が協働で主導する 人力移動手段による自然と文化の満喫



2017年6月11日

湖北トチノキ巨木訪問(三日月知事、藤井
長浜市長、辰野モンベル会長、嘉田等)

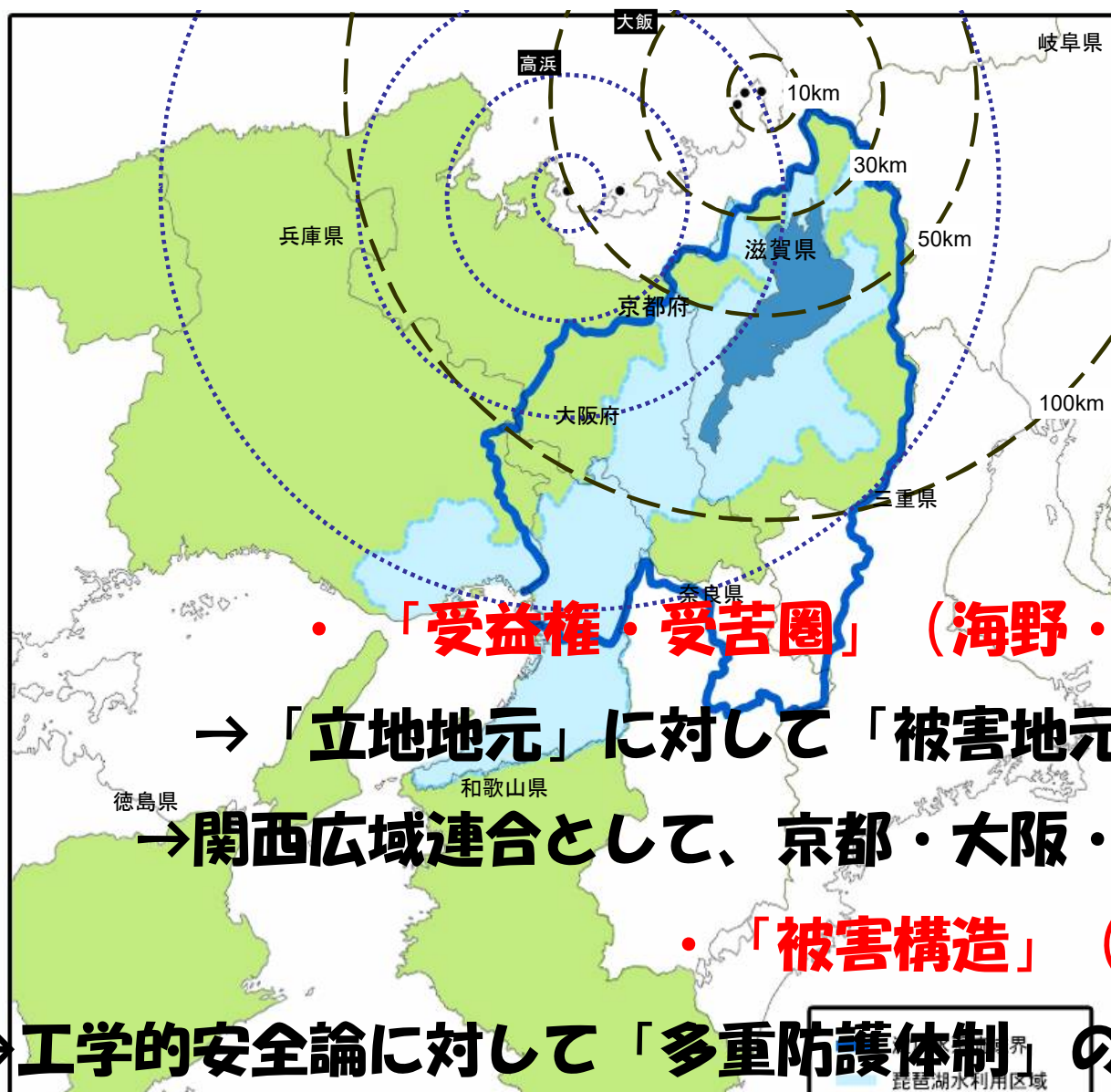
④生活観光への新しい息吹 海外誘客の里山・里海ツアーへの期待

森さんの言葉

・生活への関心、仰木の棚田、
針江のカバタ、何気ない庭先
の野菜、家のつくりなど。



1450万人が飲用する琵琶湖水利用区域と 若狭湾岸の原子力発電所の立地リスク



・「受益権・受苦圏」（海野・船橋）概念

→「立地地元」に対して「被害地元」概念の提案

→関西広域連合として、京都・大阪・兵庫と連携

・「被害構造」（飯島）研究

→工学的安全論に対して「多重防護体制」の必要性強調

①大気への影響予測

- 滋賀県では、平成23年度から国に先行して地域防災計画(原子力災害対策編)の見直しを行うことを決定。
- 国がスピーディデータを立地地元以外には提供しなかったため、滋賀県独自で放射性物質の拡散予測シミュレーションを行い、**独自のUPZ(緊急時防護措置を準備する区域)決定。**

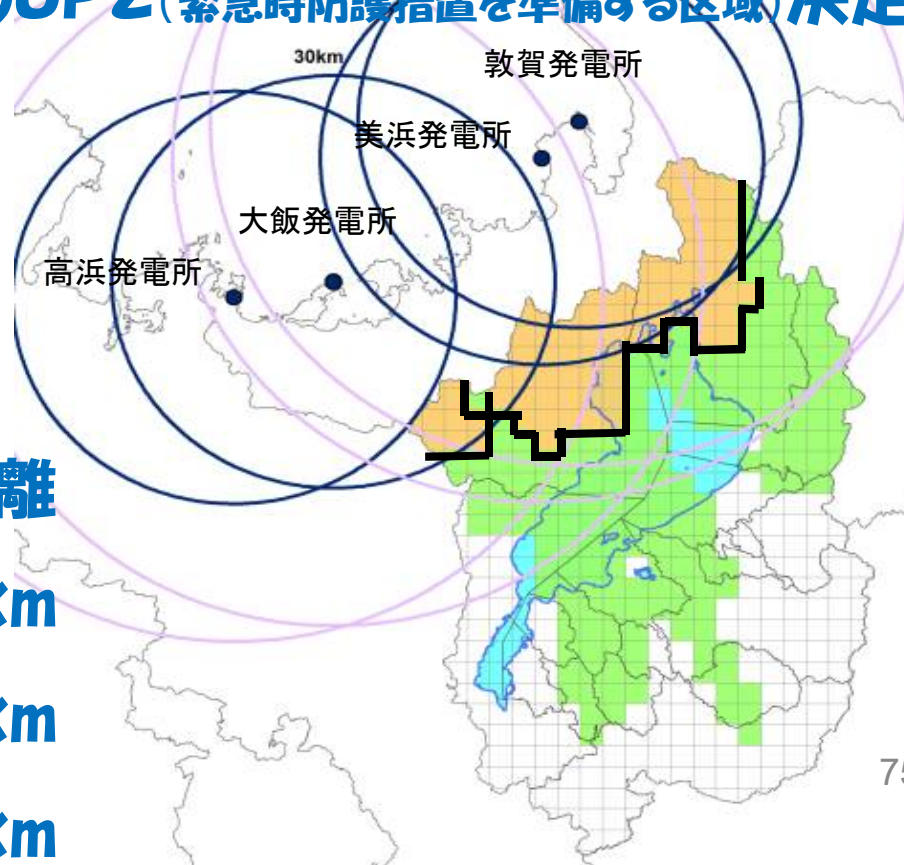
長浜市
高島市 の一部



滋賀県版UPZに設定

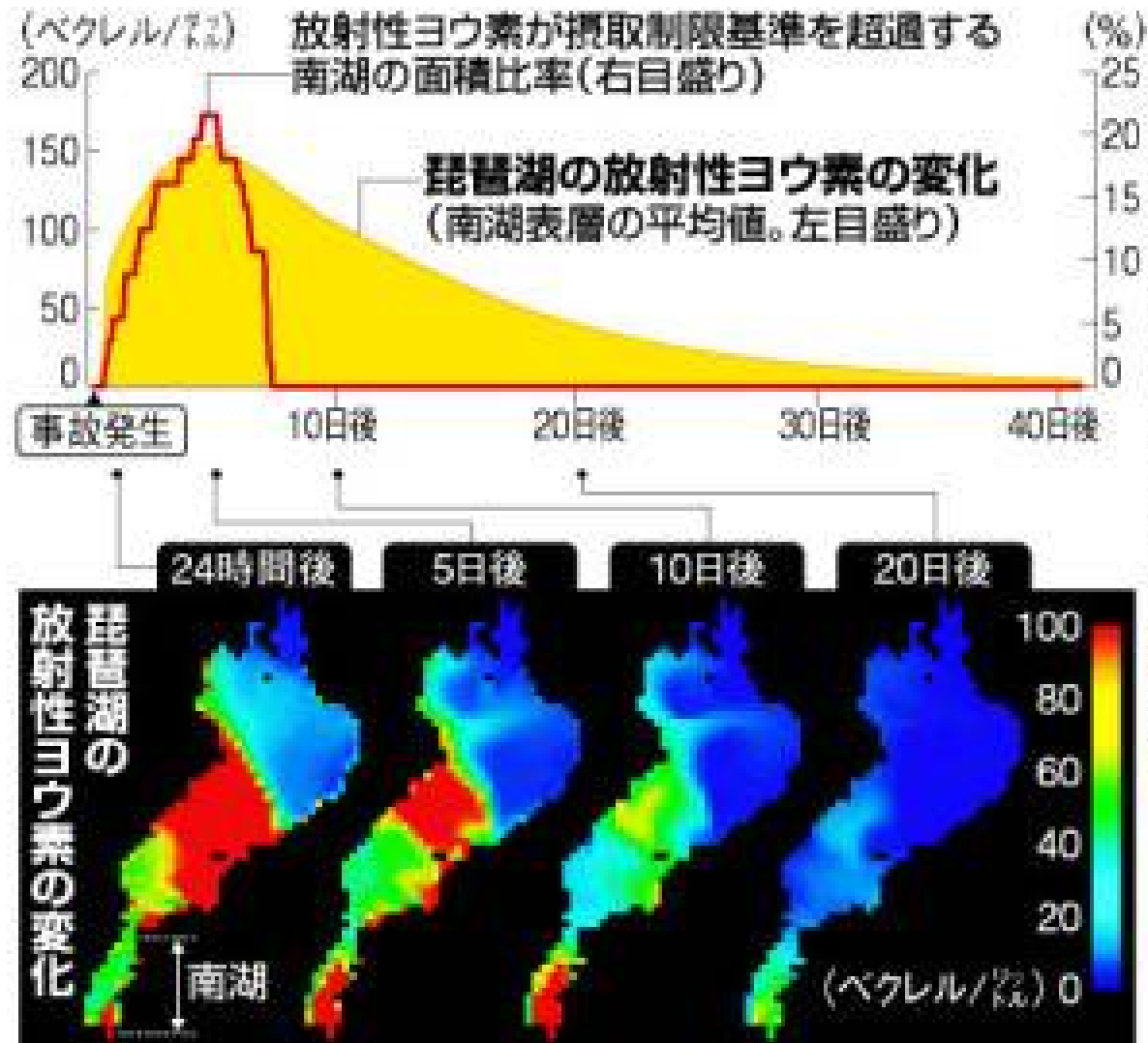
○最大距離

- ・敦賀発電所から43km
- ・美浜発電所から42km
- ・大飯発電所から32km



②琵琶湖水質への影響予測

琵琶湖水質への影響シミュレーション



※参考: 放射性セシウムに係るOIL6(経口摂取による被ばく影響を防止するため、飲食物の摂取を制限する際の基準)は、飲料水で200Bq/kg(琵琶湖水中の基準ではない)

電源の代わりはあるけれど 琵琶湖の代わりはない！



関西の人たちの命の水源 琵琶湖の代わりはありません！



「ハードウェア（使用価値）」

「ソフトウェア（存在価値）」

「ハートウェア（ふれあい価値）」

環境自治とは感性をいかして自然を楽しみながら
バランスある生態文化社会づくりを実践すること！

「自然学講座」の皆さん、琵琶湖におこし下さい！

ご清聴ありがとうございました！